

改撰

棟田長司著

大工初心圖解初編 上

福岡第一師範學校
(學校圖書)

書名	大工
著者	棟田長司
部	工部
冊	1冊
分類	256.55
入館	5.9

大工初心圖解初編 上
棟田長司著

TIA1

50

(SA69)

猿田長司著

改撰 大工初心圖解 初編

東京

千鍾房藏

大工初心圖解初編序
凡此書を額留と始として振漏斗留墨仕様四方轉作様其外
軒廻り振隅諸の曲尺遣を專として編を撰作し賜ふ往昔よ
編作も種々有といつども實撰の振漏斗留墨ハ何れも
振隅軒廻り編も有といつども振隅諸の曲尺遣何れも付
初心のふたは圖式手取取て引が如く工師猿田氏は發明
賜ふ之四方轉物正面を四方一轉といつども隅より見ると
片轉に有之此理に心得て作上ハ四方轉又ハ五方轉六方轉
ても同理方ありし隅木も陸を元として作上を平の上り木
も同様尺々平と隅との相違有ふ付隅の上り木を作も同様多
分の違ふ手重よりす匠家と圖を元とせざる故に何も書よ
あとい圖學専用あり

改撰 大工初心圖解初編卷之上 目錄

一 額留之墨仕様圖

同 額之圖

二 振漏斗留墨仕様圖

三 振漏斗洞突墨之畵

四 脚立建地割圖

同 同四方轉造様

五 同柱又曲尺遣様

同 同曲尺出様

同 同貫洞突勾配

六 定規柱棒桶落懸畵

同 同落懸墨

七 同桶長量様

同 同榑配付墨

八 同鼻隱向留

同 同廣小舞下端留

同 同藥研榑隅伐様並留曲尺

九 一尺付守ノ振地桶曲尺遣畵

十 同癖定規柱桶落懸

同 同桶 同伏地

一十 同振地割ヨリ各墨曲尺出様

二十 方形合掌作地棟鼻大栓畵

同 同小屋伏地

三十 同隅合掌

四十 同隅合掌尻又仕様組手

同 同配付合掌鼻栓止仕様

五十 同隅平合掌長出様

同 同母屋轉を隅合掌寫様

同 同母屋洞突墨 二様

六十 同留上端枝懸伏地

同 同組手上端枝懸伏地

七十 同隅合掌配付穴墨仕様

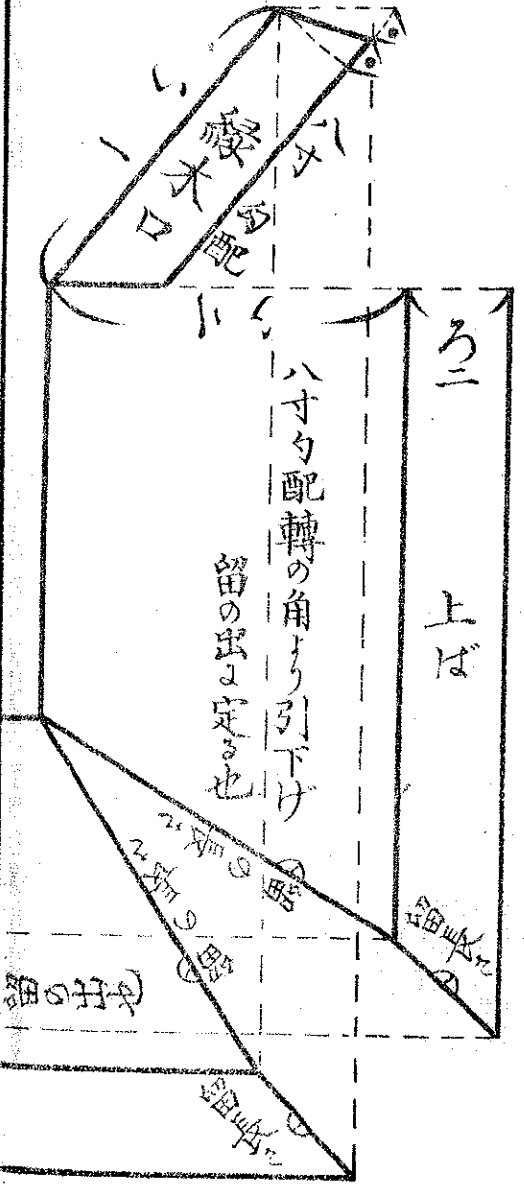
八十 同榑長取様

九十 大唐破風之畵

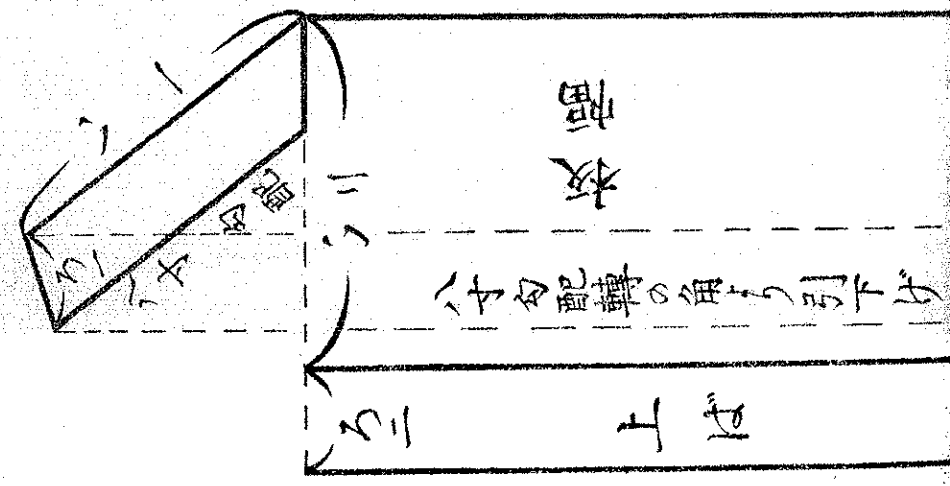
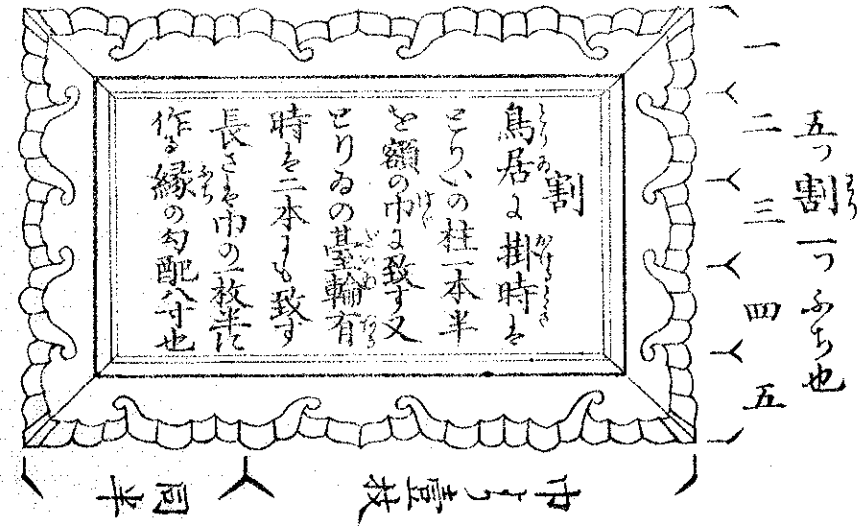
十二 同圖

額留之墨仕様圖

一 額留墨仕様を寸勾配の縁木口を引出し
 (一)の寸と(二)馬一(三)の寸と(四)馬一板
 幅と上げを引出しを八寸勾配轉のかぐり
 引下げ留の出は定り留の長さを引出す也



額之圖

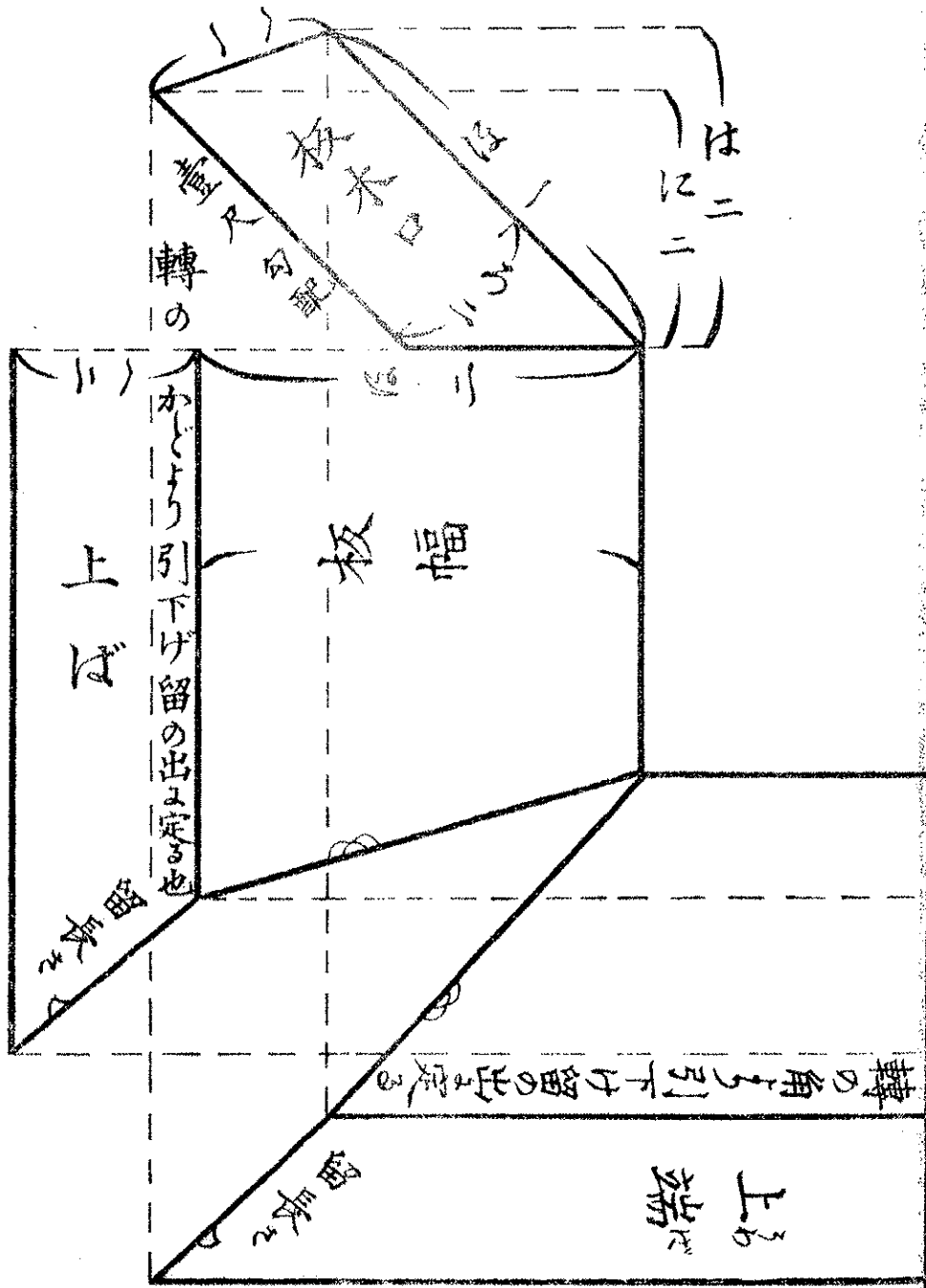
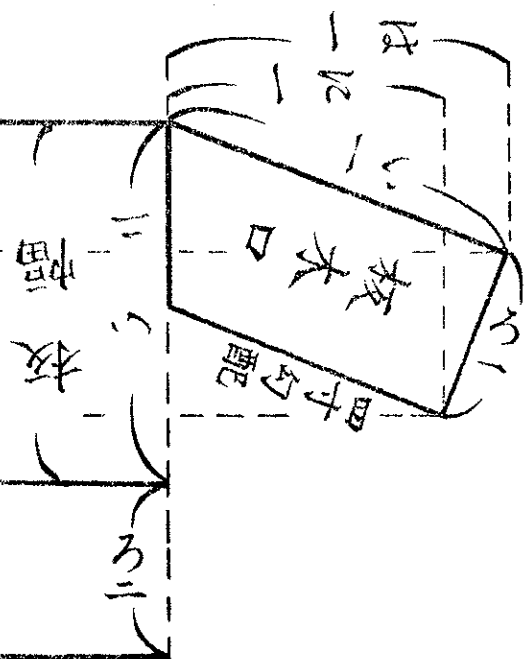
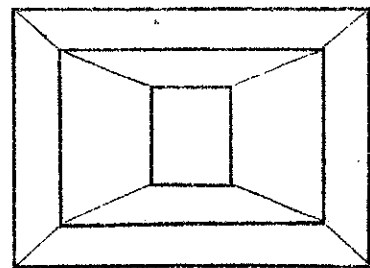


振漏斗留墨仕様圖

一 留墨仕様も四角配の板木口を引出し(一)と初めにして額留の理方より一尺の配の板木口と定め兩方の板幅と上はと引出し四角配の壹尺の配轉の兩角より引下げ留の出は定め留の長さ引出すあり又留の長さも兩方より可合長さ不台時を其時の引方は違なり可知何寸の配でも此理方あり

同

上端圖

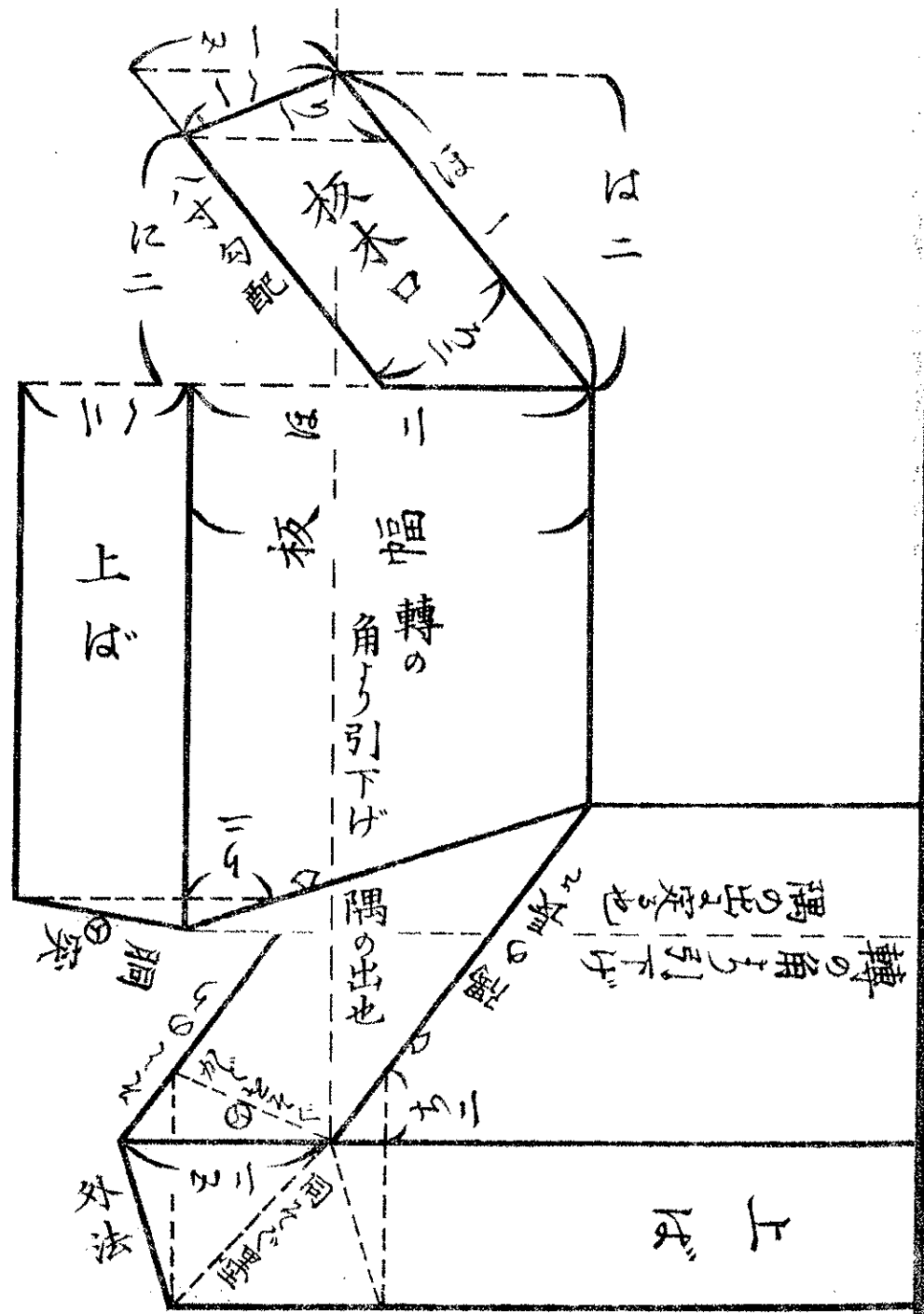
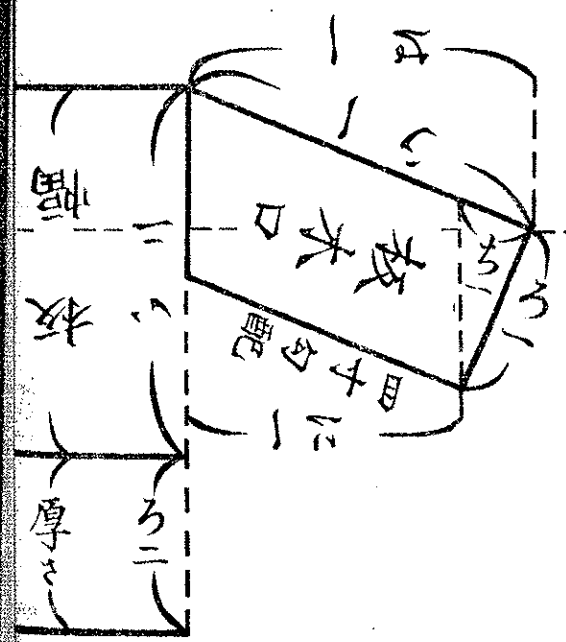
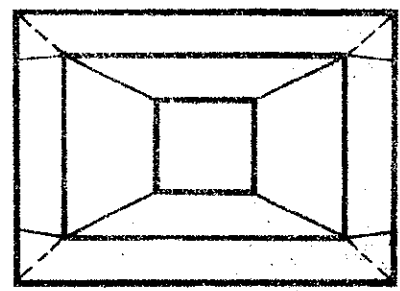


振漏斗胴突墨之圖

一 胴突墨仕様を四寸勾配の板木口を引出し(一)と初として額留の理方よ
 寫し八寸勾配の板木口を定め兩方の
 板幅と上はを引出し(二)と四寸勾配の
 八寸勾配轉の兩角より引下げ隅
 の出を定め隅の長さだけ引出し(三)
 (り)と(り)二系寫し其ひつちより真
 曲尺よ上はを廻り(一)と胴突墨引あり
 又(二)と(二)二系寫し外法の出を定め也

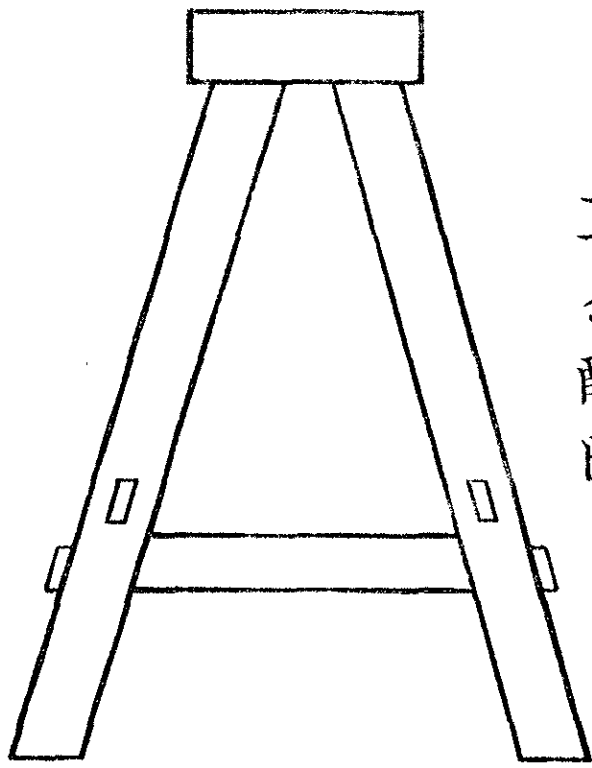
同

上端に備



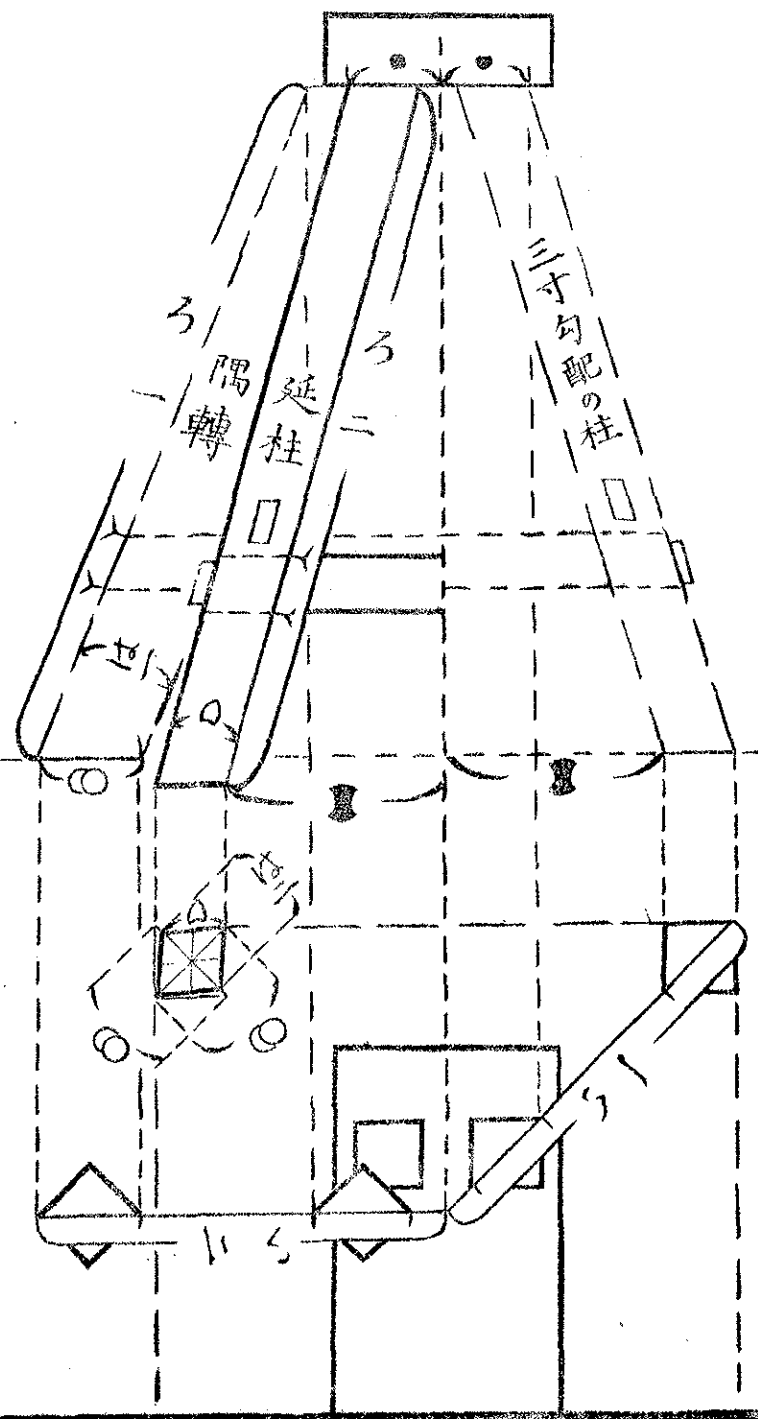
脚立建地割

三寸勾配圖



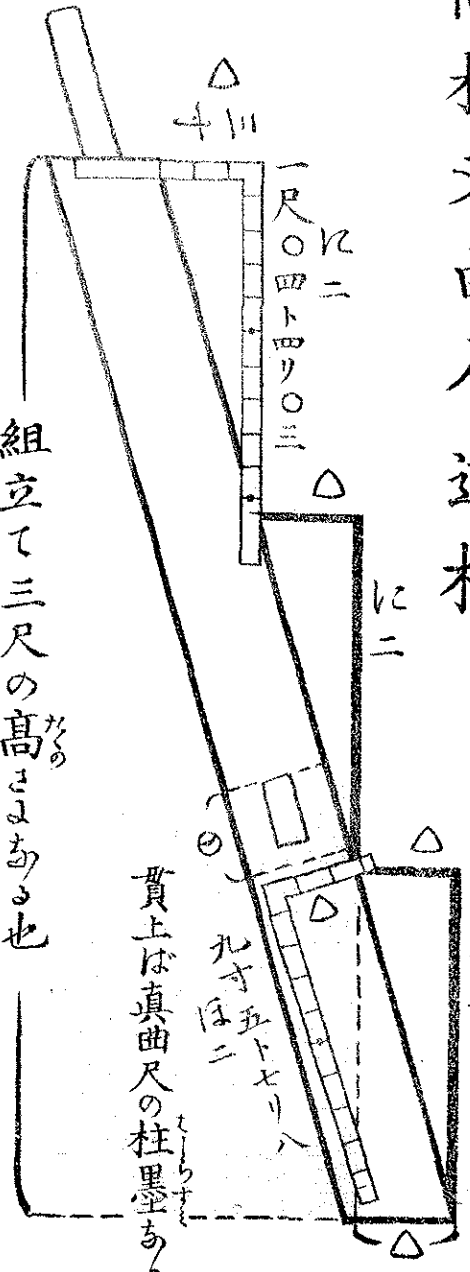
一 四方轉造様を建地割
 三寸勾配の柱を引出し
 柱木口の居所を定め(一)を
 (二)寫て隅轉を引上げ
 (三)と(四)を寫て延柱の幅を
 引出し其圖を柱貫を
 墨可致組立て建地割の如
 くある也又柱木口癖出
 様を(一)と(二)を寫て木
 口割と菱を造るあり

同四方轉造様



同柱又曲尺遣様

尤此方を真曲尺の貫と通す

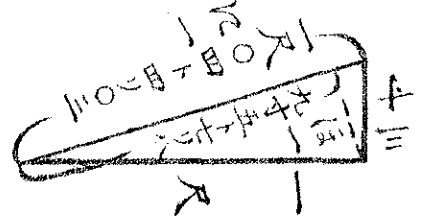


組立て三尺の高さもある也

貫上は真曲尺の柱墨あり

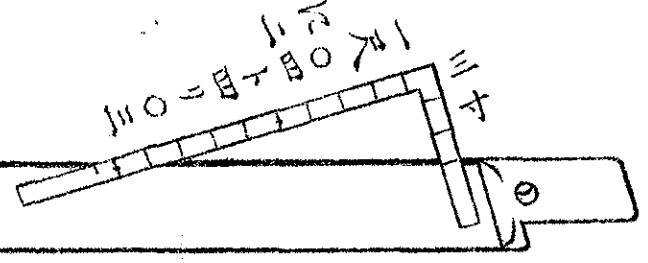
一脚立柱長さ量様と三寸勾配の延壹尺〇四ト四リ〇三に三寸と三
 度量を組立て三尺の高さもある尤洞突より地付迄あり又た洞
 突の勾配も此曲尺あり又何寸勾配をも其時の勾配の延壹尺
 何寸分有をもつて壹尺と致す横手と其勾配の寸あり

同曲尺出様

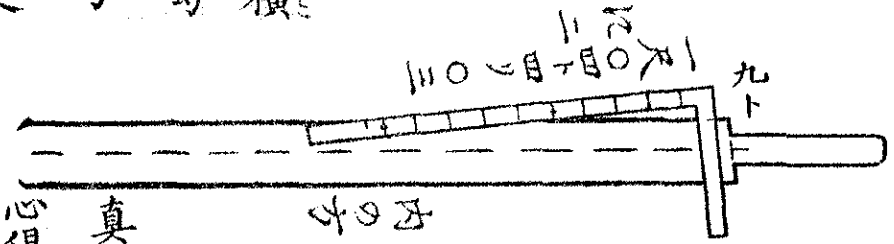


同貫上端真曲尺
 上端洞突之勾配

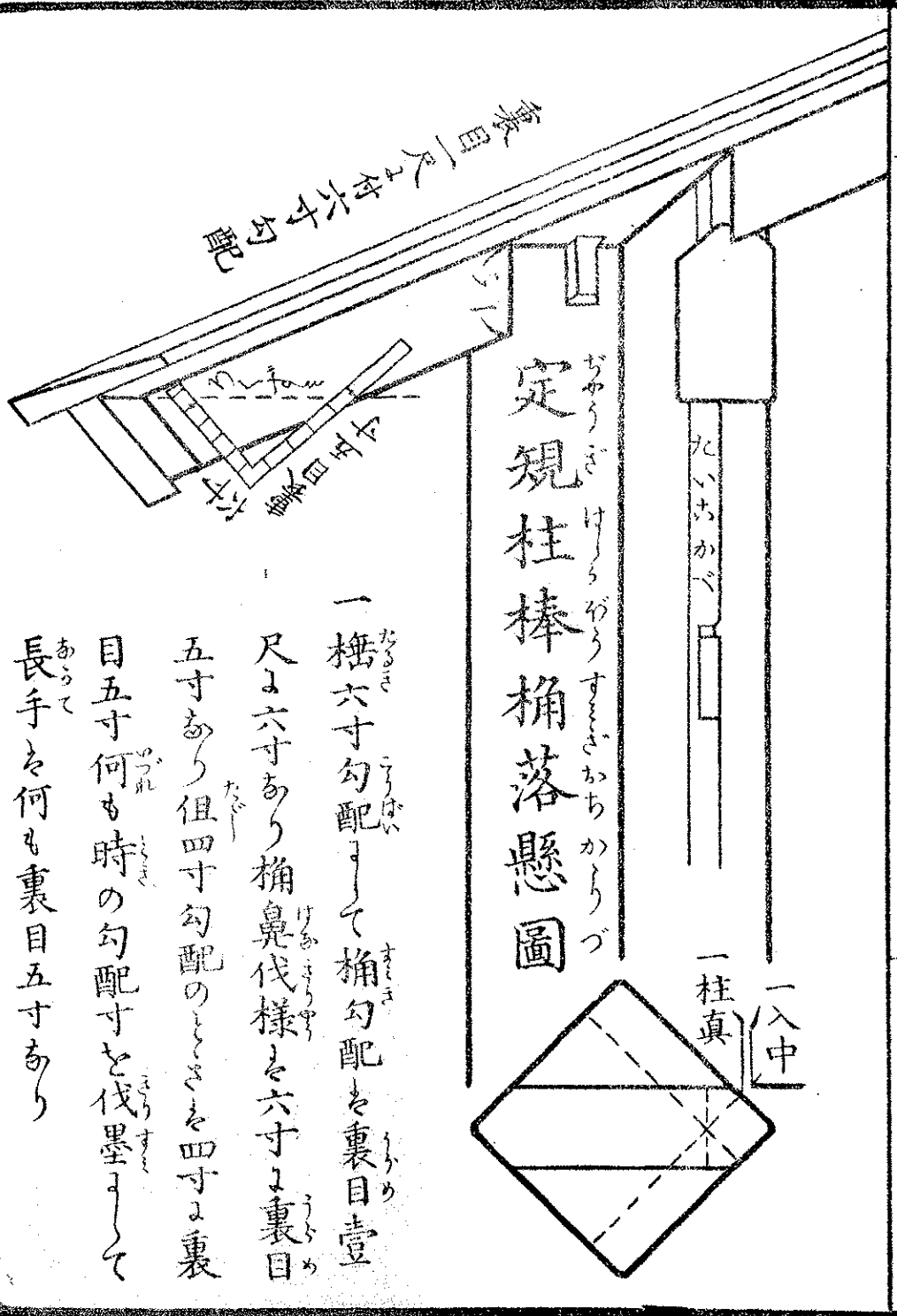
同貫成洞突勾配



一貫上は真曲尺上ば洞突の勾配横
 手九分と三三の九分あり但四寸勾
 配の時を四寸六分何れも其時の勾
 配をかけるあり長手と其勾配の延へ



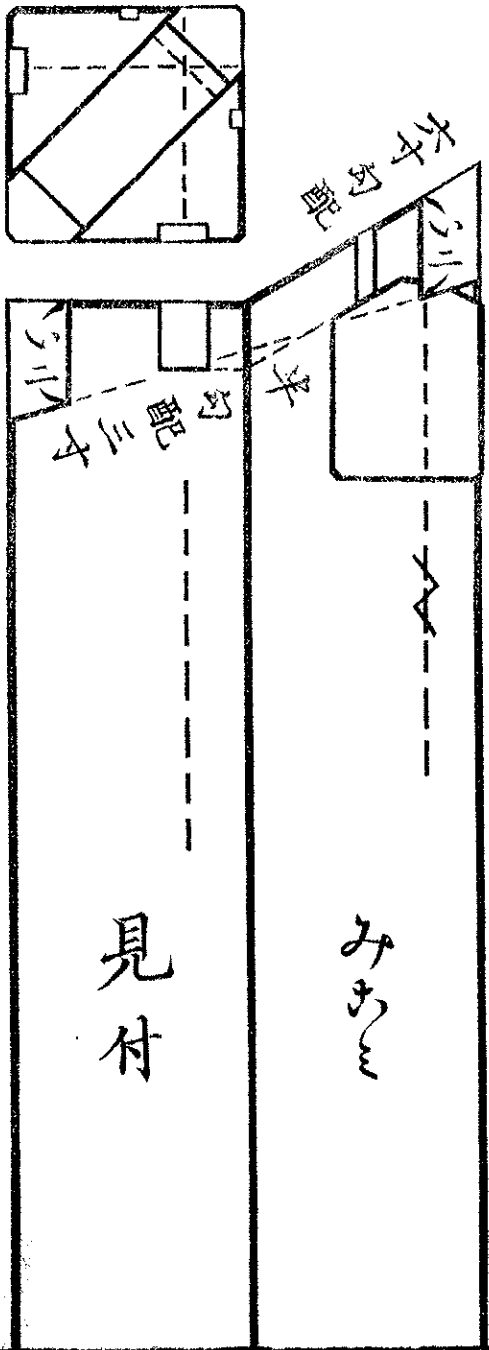
真曲尺の貫を長さ取所と
 心得て墨と致すべく也



定規柱棒桶落懸圖

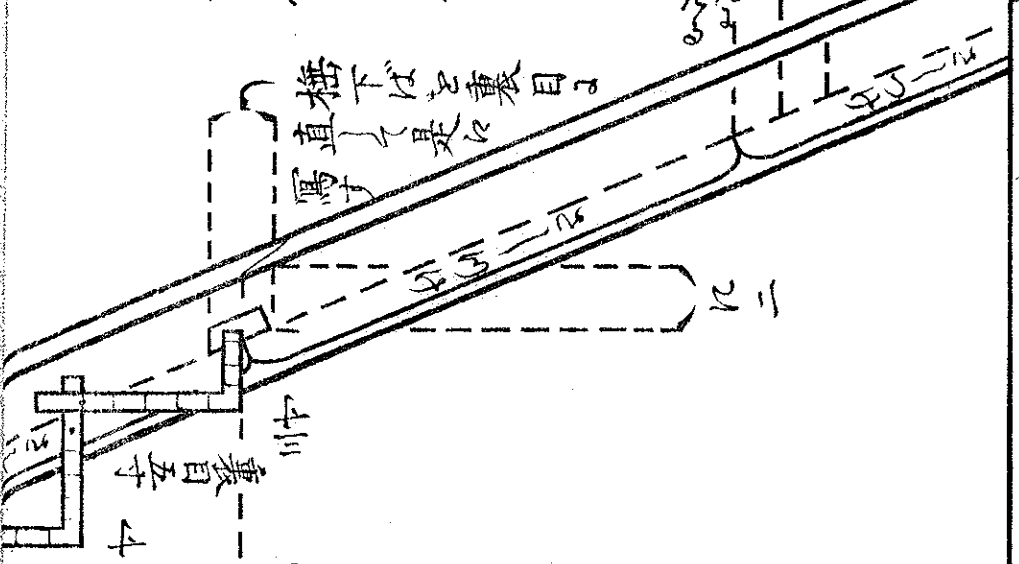
一樁六寸勾配して桶勾配を裏目壹
 尺よ六寸あり桶鼻伐様を六寸よ裏目
 五寸あり但四寸勾配のときを四寸よ裏
 目五寸何も時の勾配寸を伐墨して
 長手と何も裏目五寸あり

同落懸墨

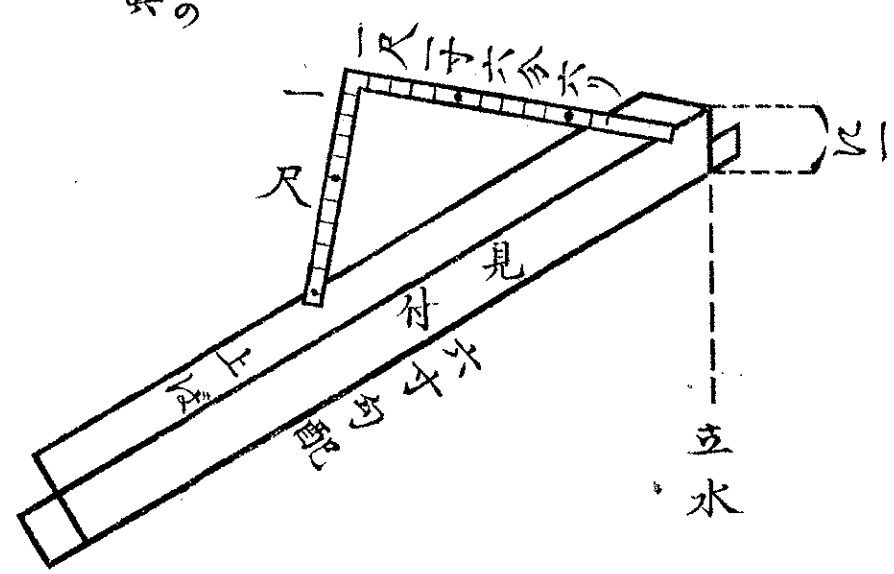


一落懸下の墨仕様を柱の拵墨より六寸勾配の樁成を引出し置
 (い)と(い)二に馬すべし下はと半勾配何も無振と半勾配あり

同桶長量様

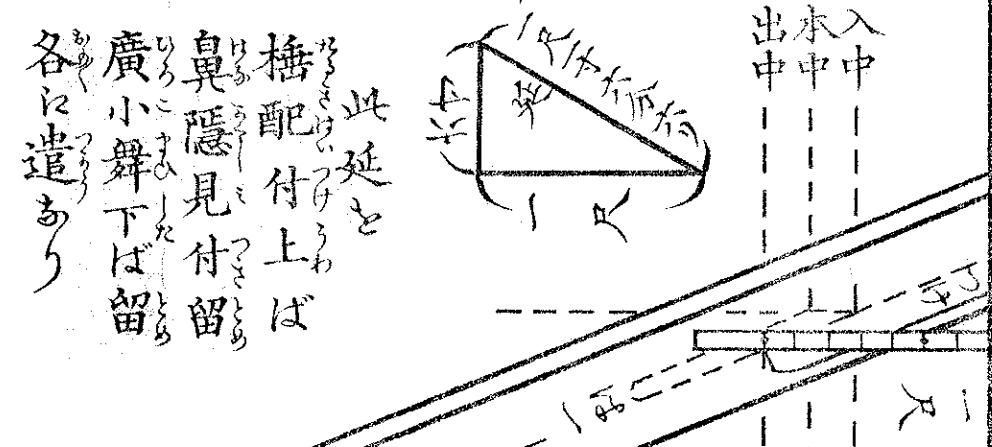


同桶配子付墨



並^よ高脊取様

同延の曲尺



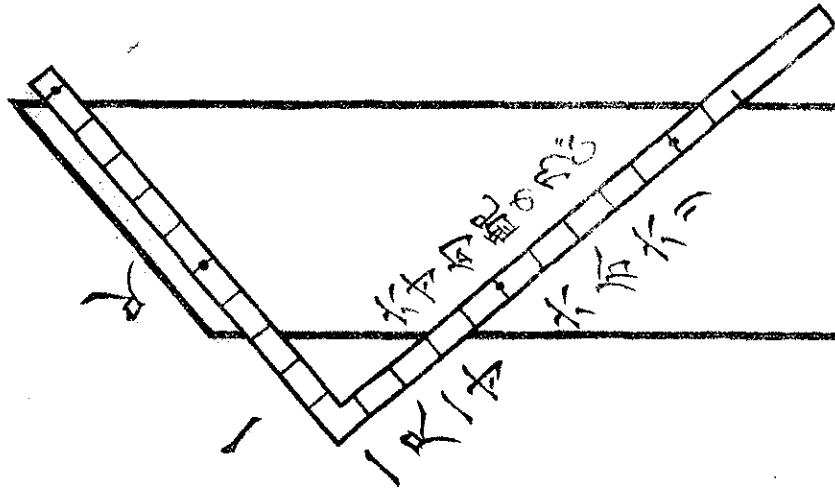
此延と
桶配付上は
鼻隠見付留
廣小舞下は留
各に遣あり

一桶長と量様と六寸と
裏目一尺也但四寸勾
配の時と四寸と裏目の
壹尺何も無振と此
理方あり

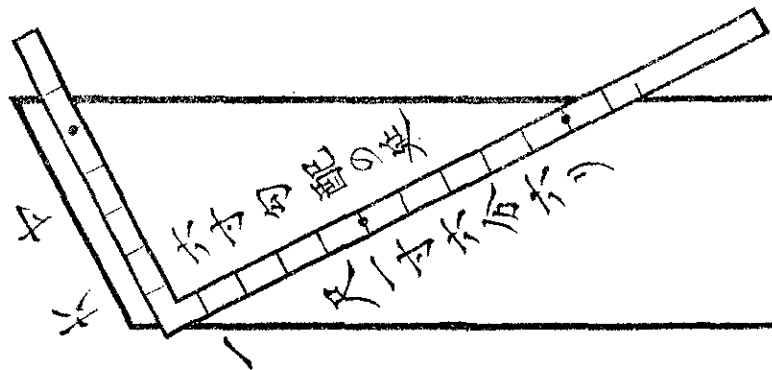
桶真_一
一尺五寸
一尺

下ノ尺ノ曲ニ留メテ

留端下舞小に廣同

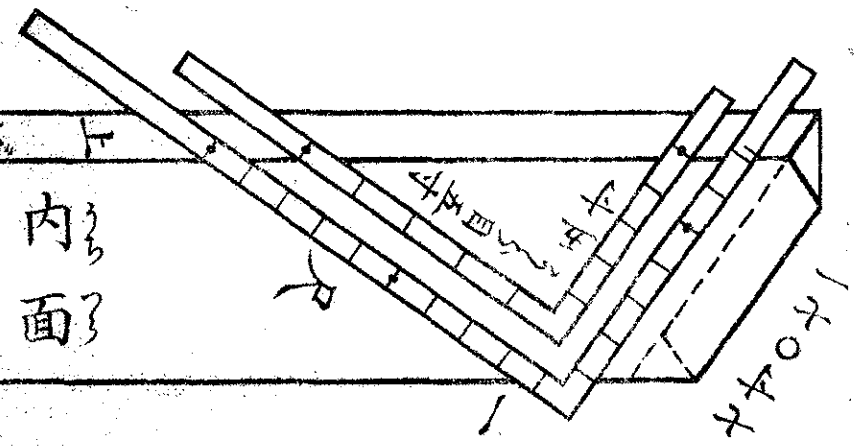


留向隠鼻同



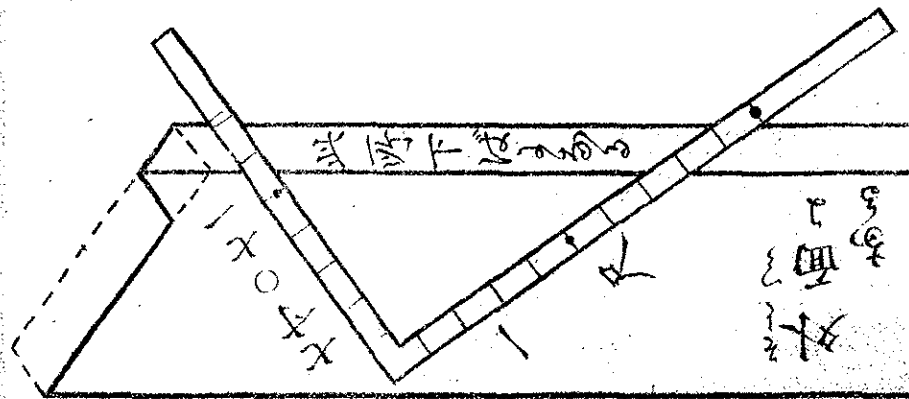
下ノ尺ノ曲ニ留メテ

尺曲留並様



内面

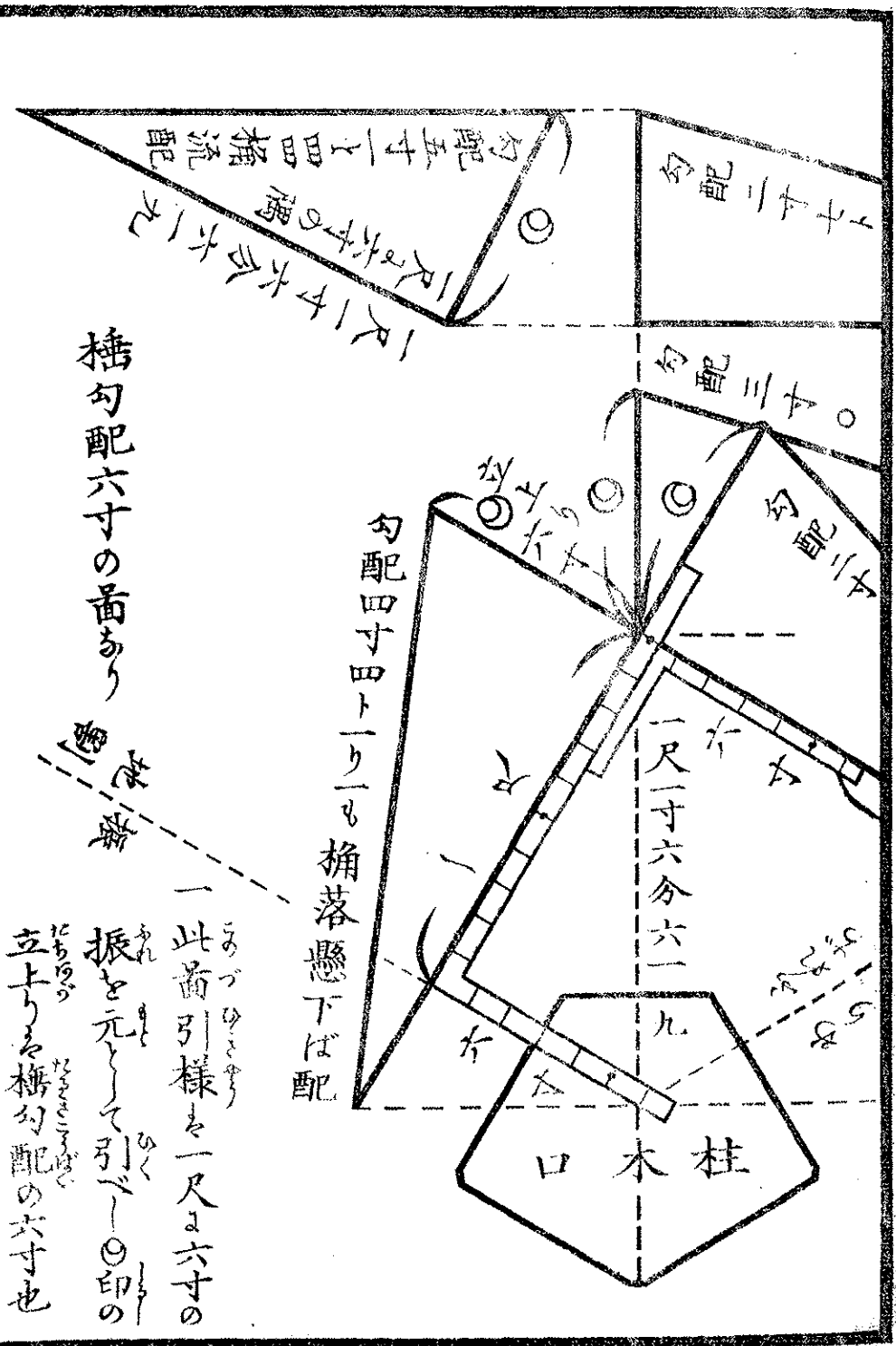
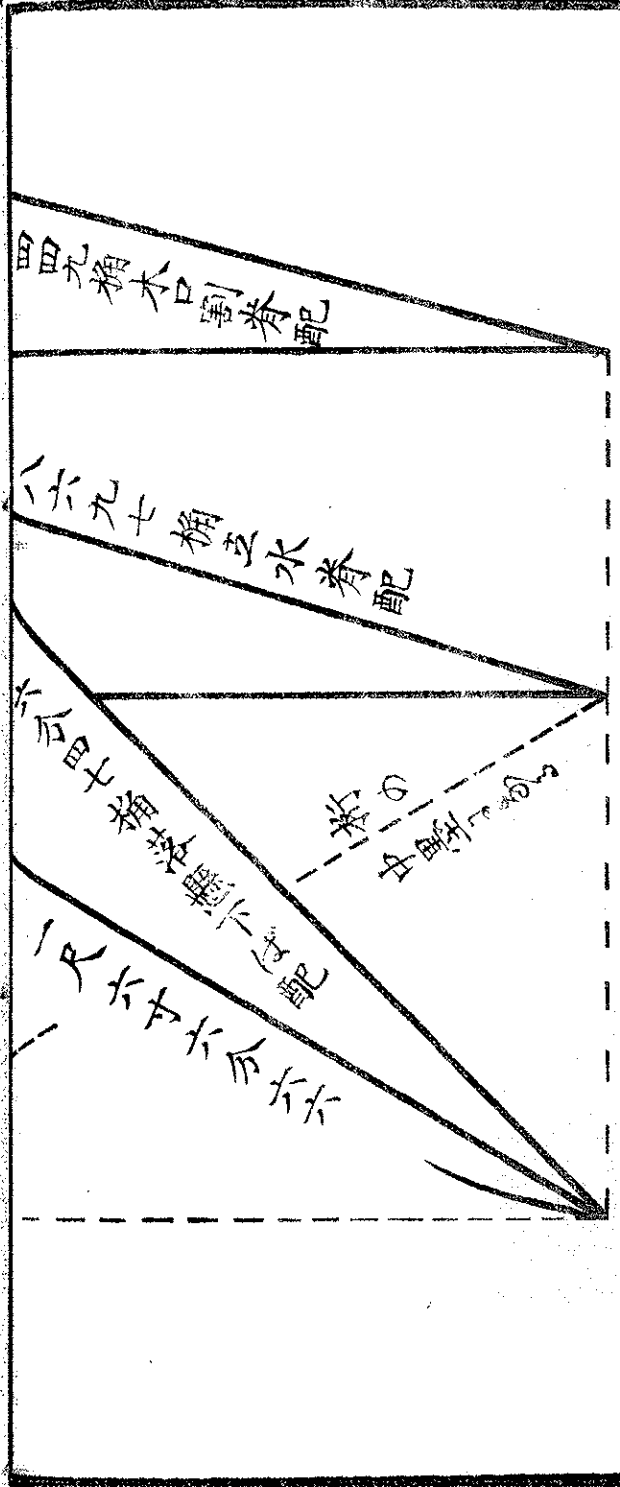
尺曲留並様



外面

一尺二寸六寸の 振地 桶曲尺遣 癖定規柱木口圖

同流の勾配 各此振地割より出す則左の圖にて遣あり
同立水脊勾配 同木口割脊勾配



構勾配六寸の番あり

一此首引様を一尺二寸六寸の 振を元として引一〇印の 立上りも構勾配の六寸也

木ノ心ノ角ノ糸ノ者ノ一

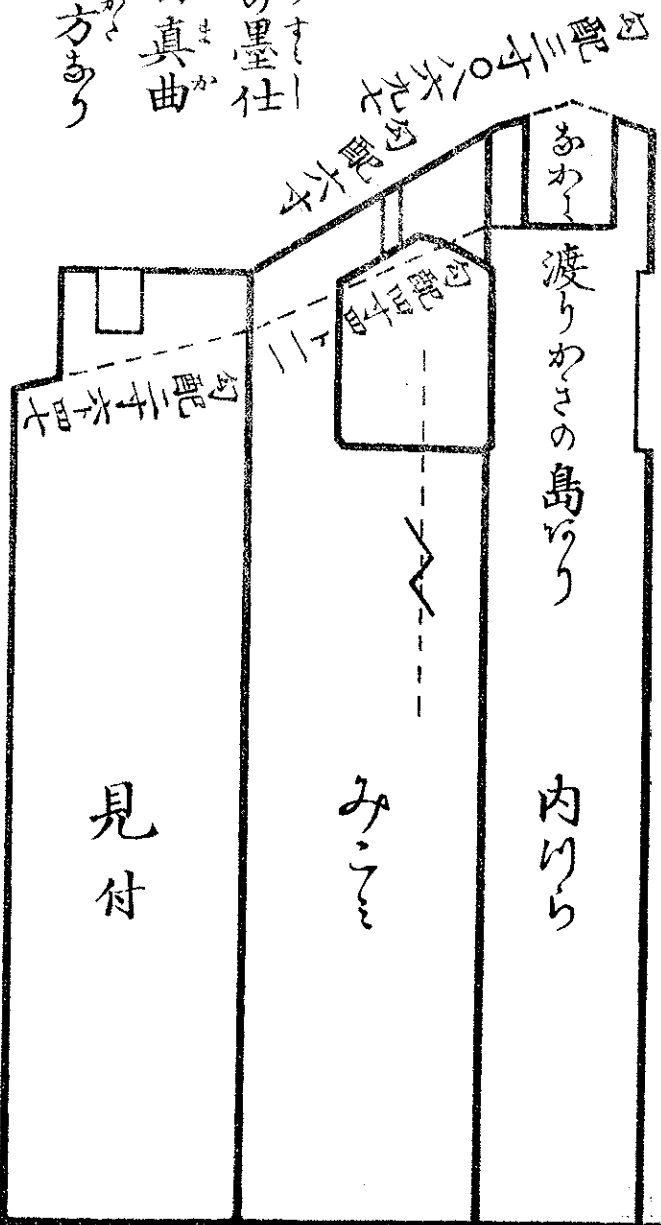
同癖定規柱桶落懸

とせどちりふけりすまじらありあり

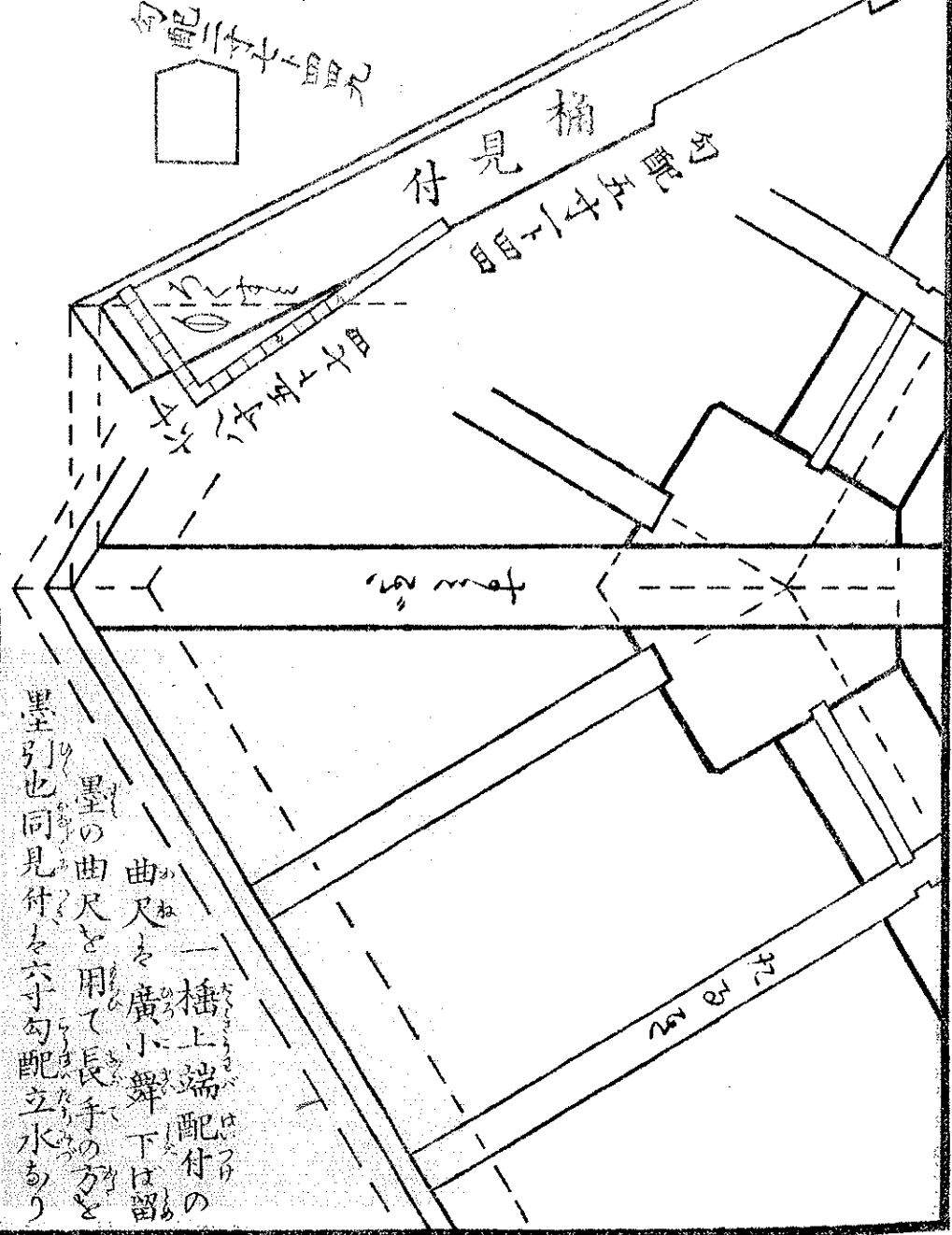
一落懸下の墨仕
様を右箇真曲
尺柱の理方あり

同桶

同伏地



同桶木口割

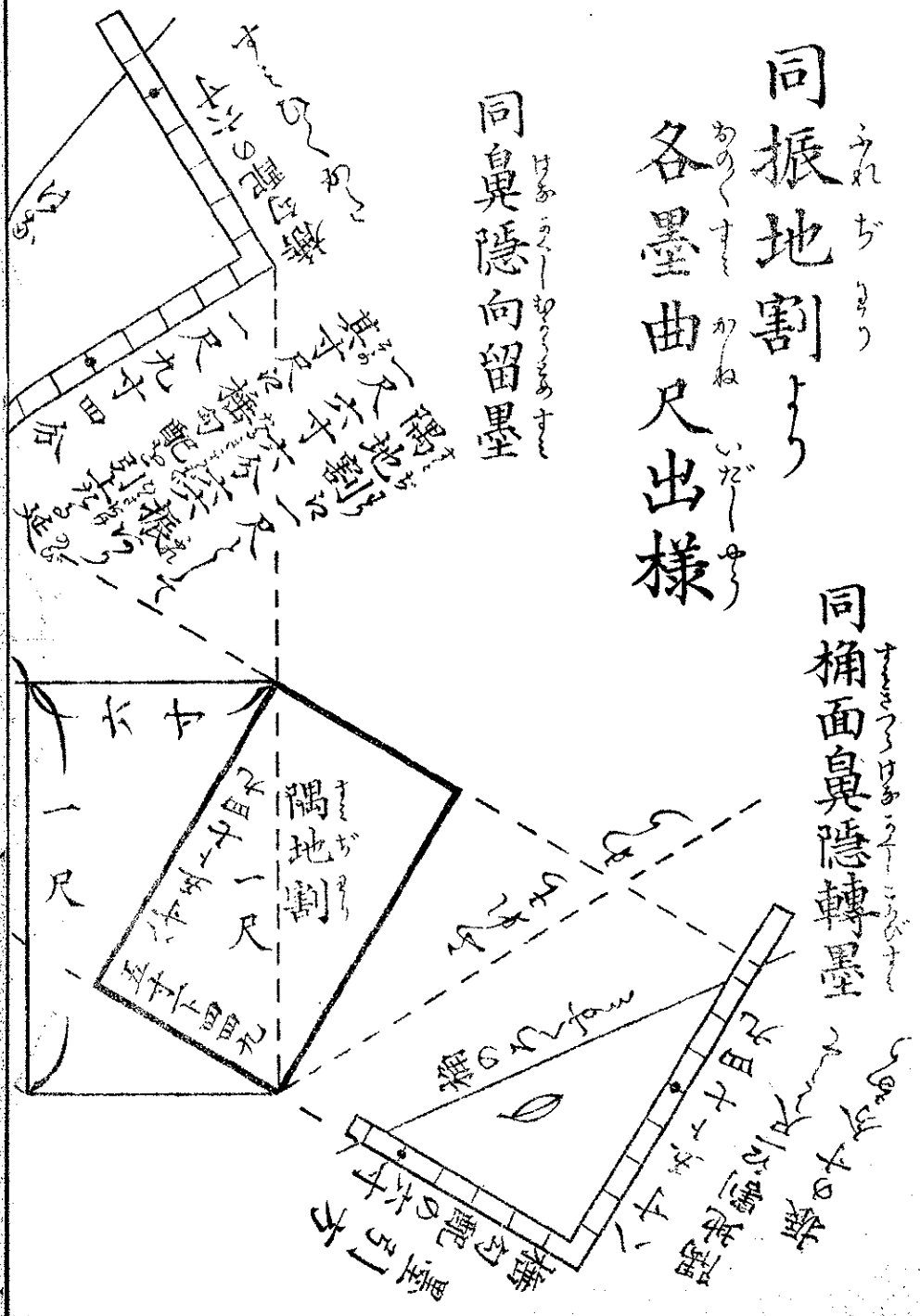


木ノ心ノ角ノ糸ノ者ノ一

同振地割り 各墨曲尺出様

同鼻隠向留墨

同桶面鼻隠轉墨

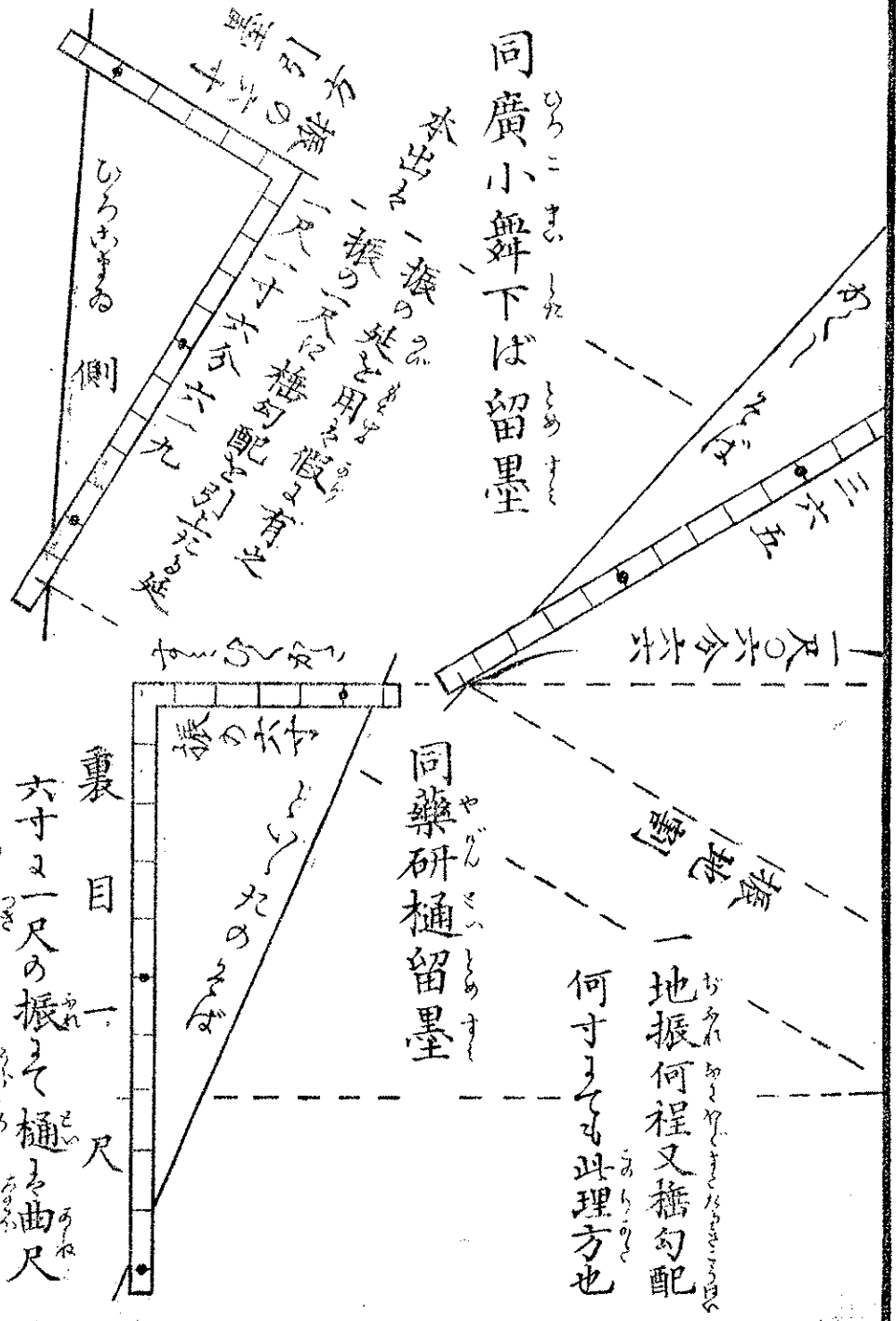


同廣小舞下ば留墨

同藥研桶留墨

裏目一尺
六寸又一尺の振りて桶を曲尺
勾配を付一尺を裏目より直す也

一地振何程又樺勾配
何寸も此理方也



方形かたがたよまて

合掌がっしょう作地棟さくぢ鼻大栓はなだいせん番ばん

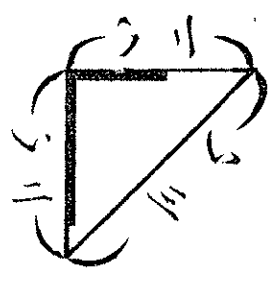
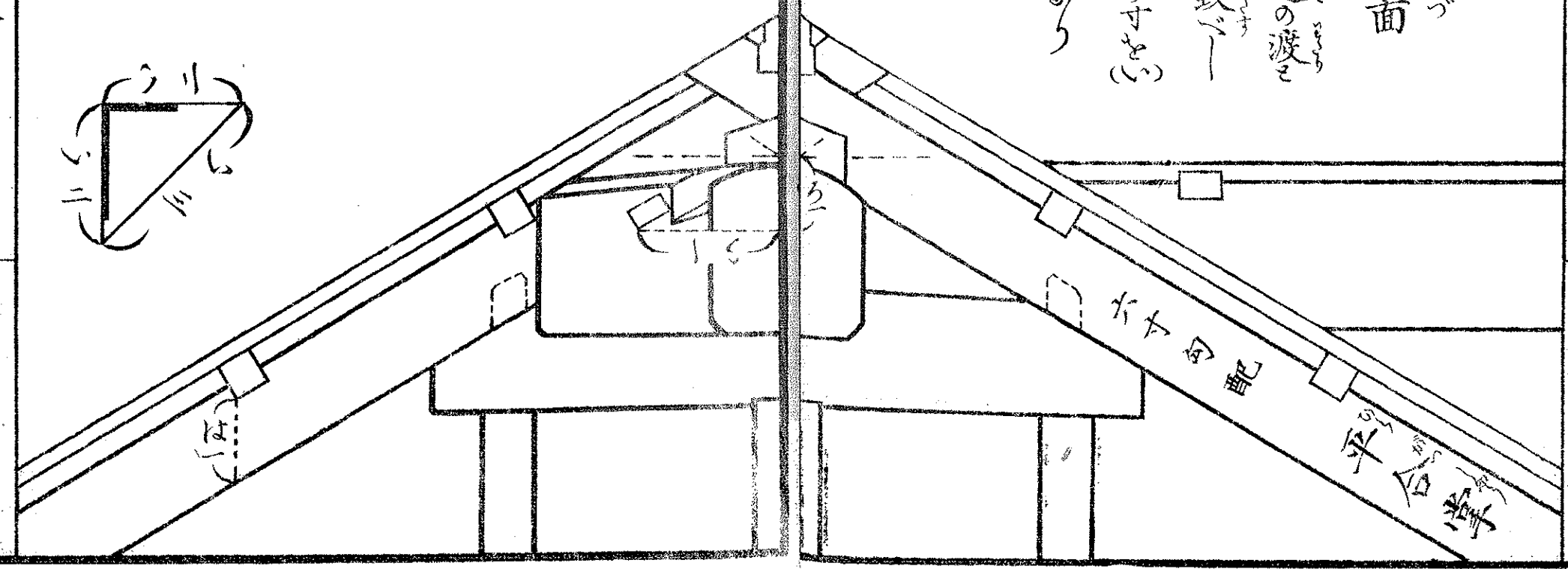
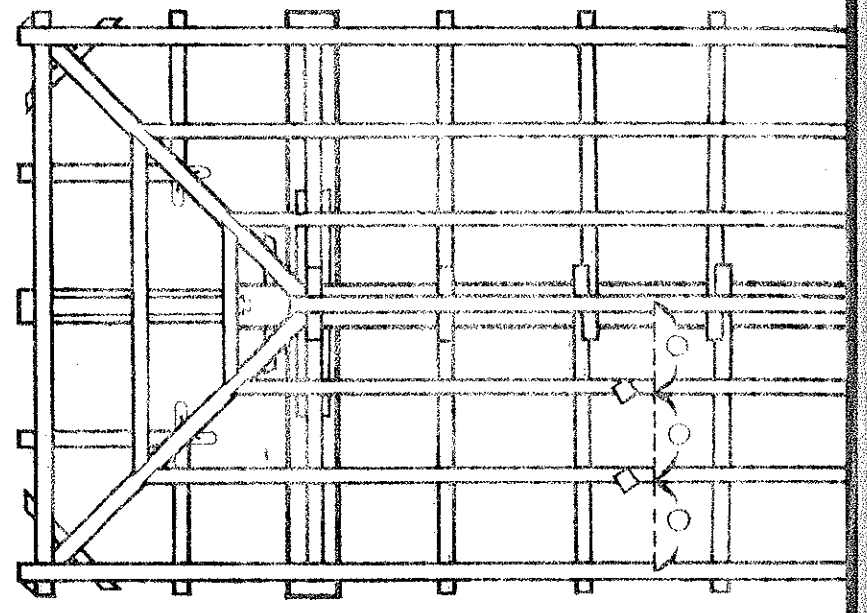
一 大栓だいせんと地棟ぢぢょう真まより大栓だいせん迄きの渡わたり

上うり下くだりを見定みまめて通所とんじょ致いたす

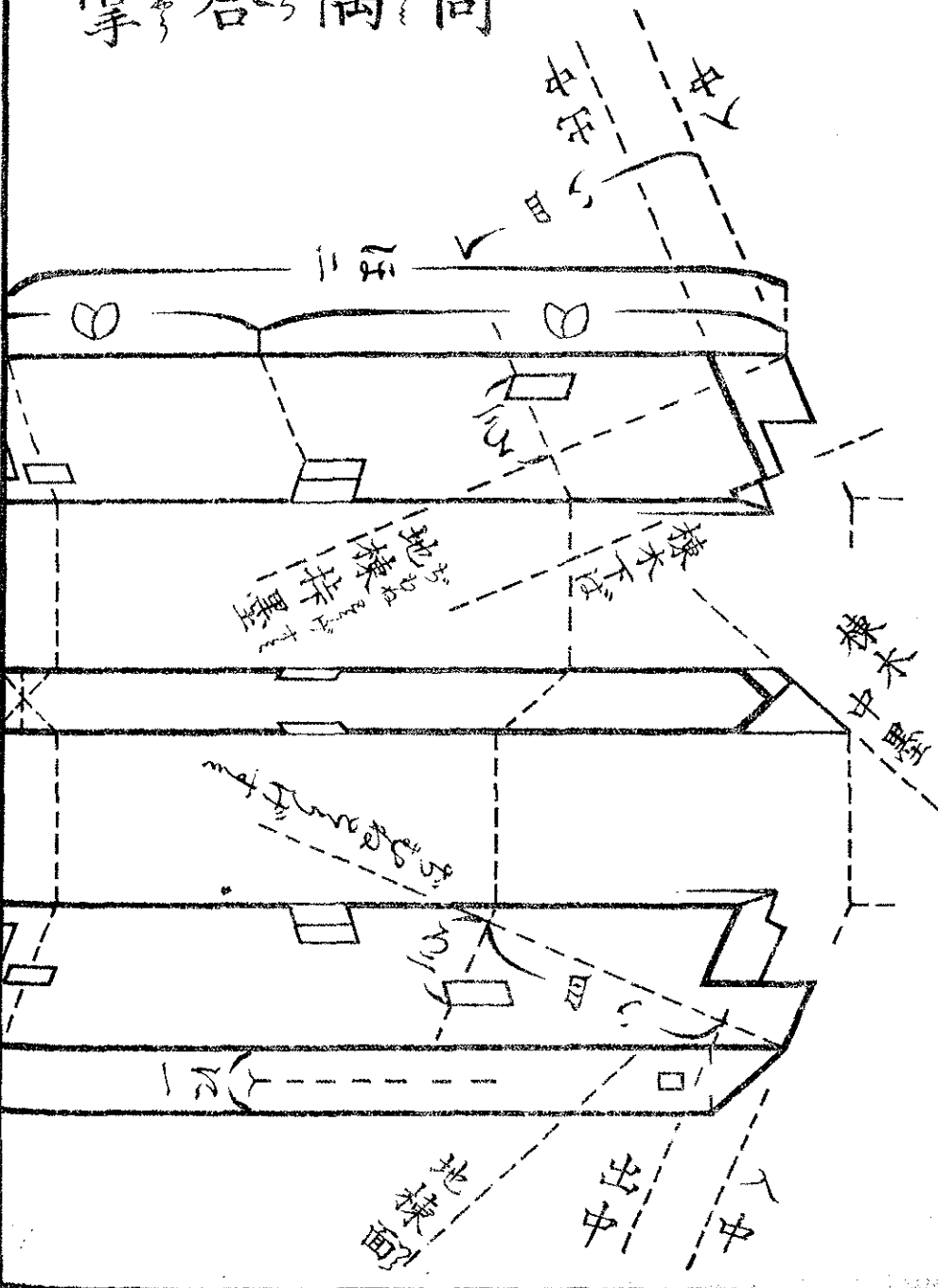
又大栓だいせん穴あな墨渡すみわた馬うま様さまと一いの寸すんと

二にの馬うま一い三さんの寸すんと四しの馬うまあり

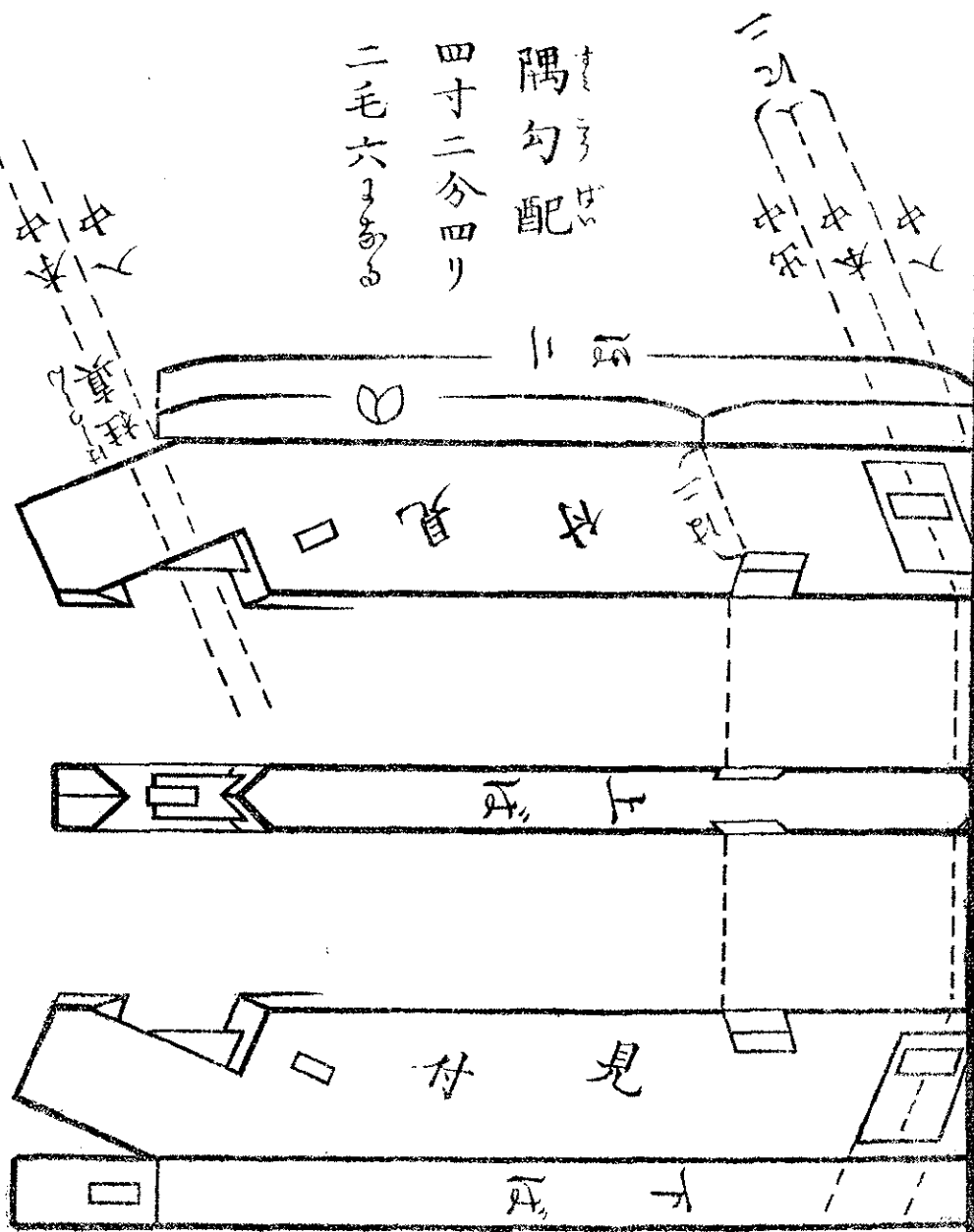
同どう小屋こや伏地ふせぢ



同隅合掌



隅勾配
四寸二分四リ
二毛六

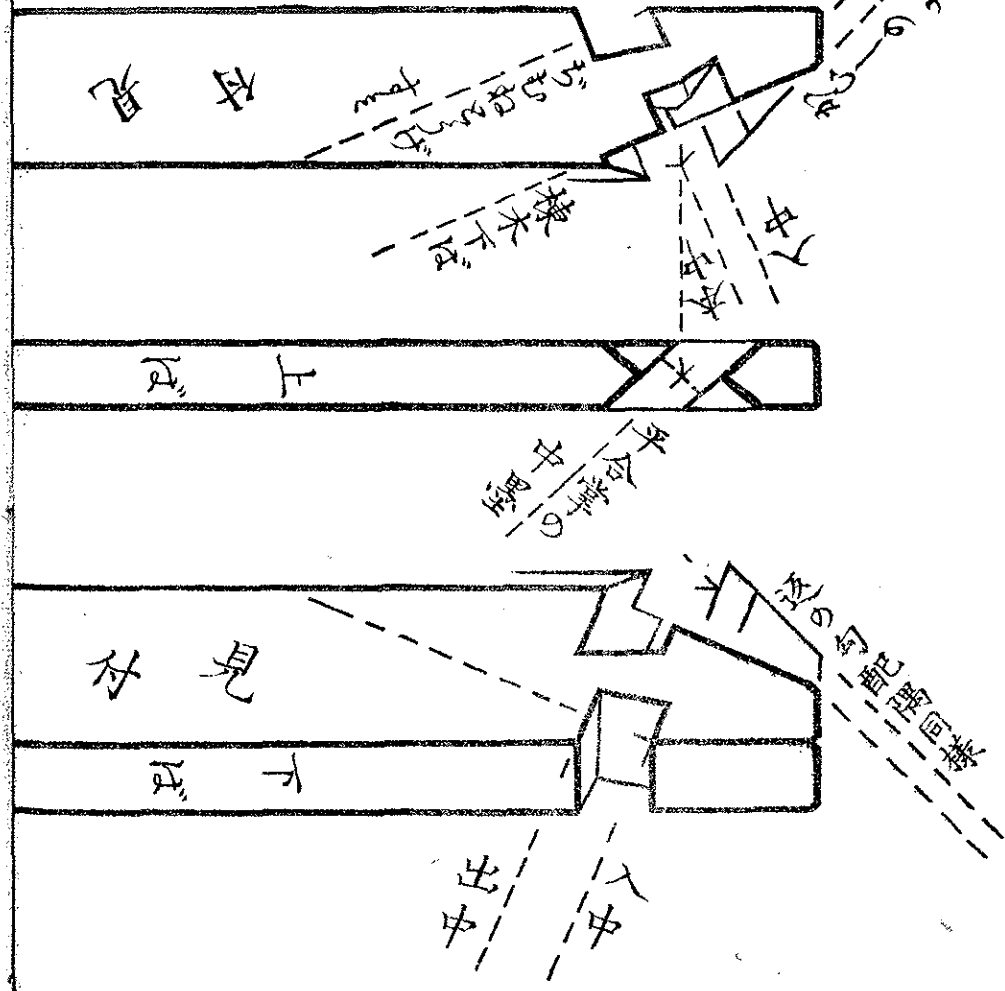


配付合掌の下は下は
裏目直之是に配

同隅合掌尻

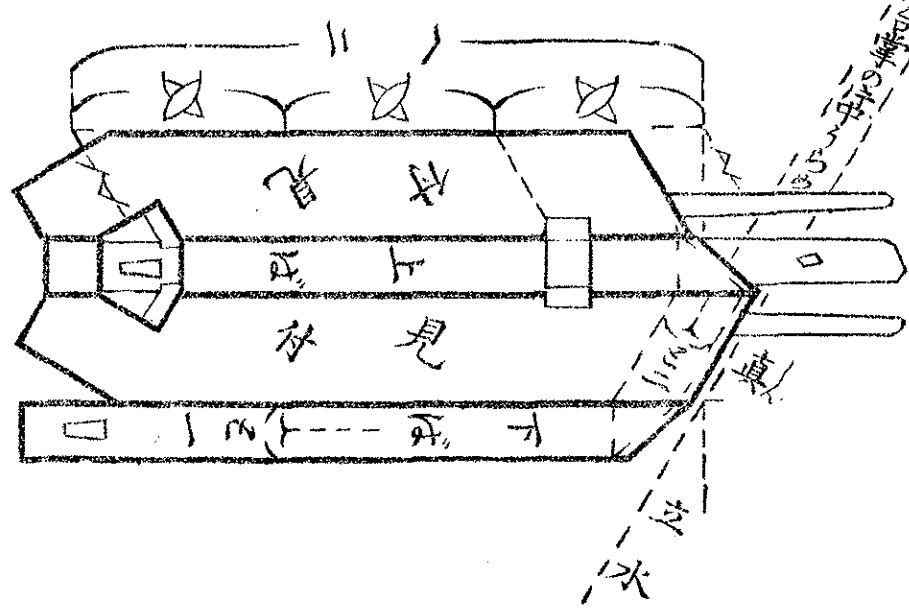
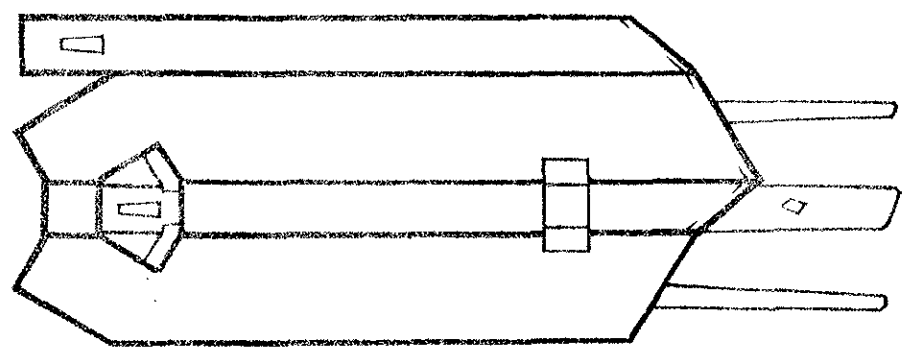
又仕様組手

一隅合掌尻と組手は致時々
 此尻より平合掌の下はよひんた
 の付様は改此方の平合掌
 曰留上は懸る平合掌の
 組へす組立もあつても也

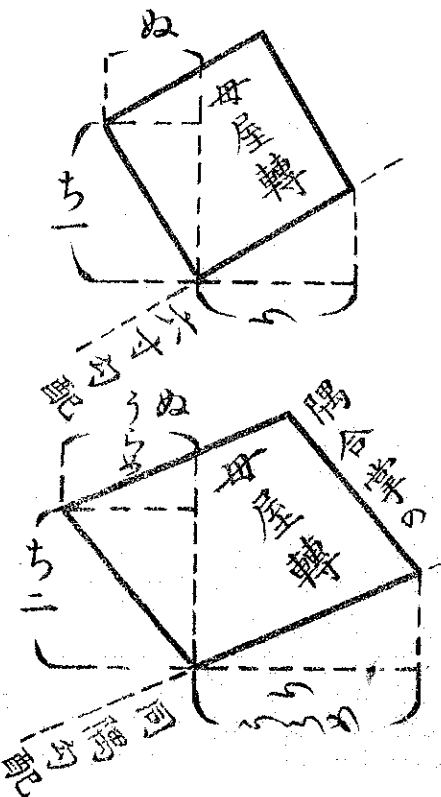
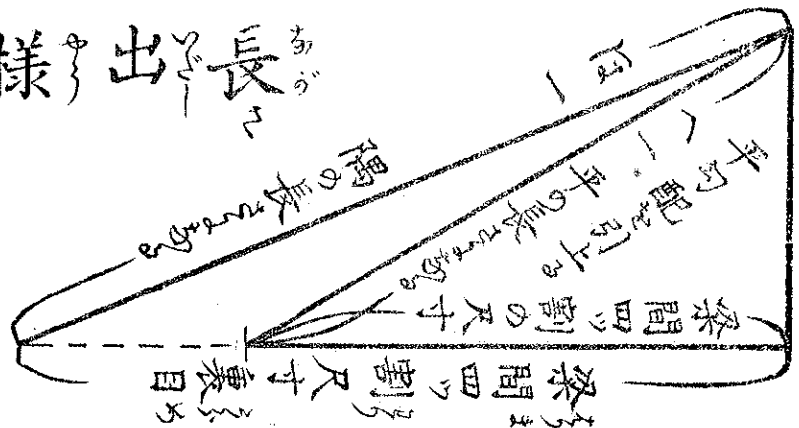


同配付合掌

鼻栓止仕様左右



同隅平合掌の
長出様

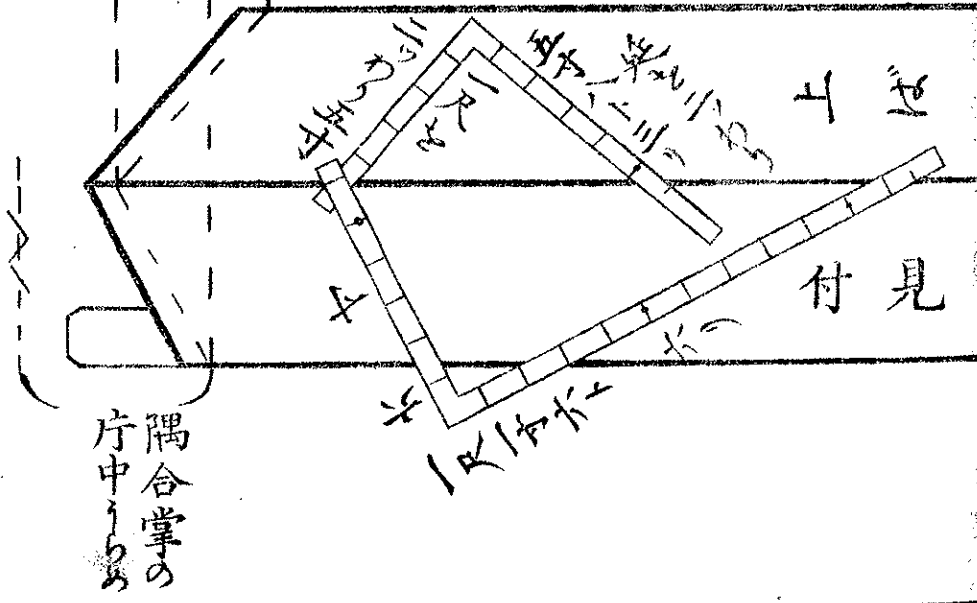
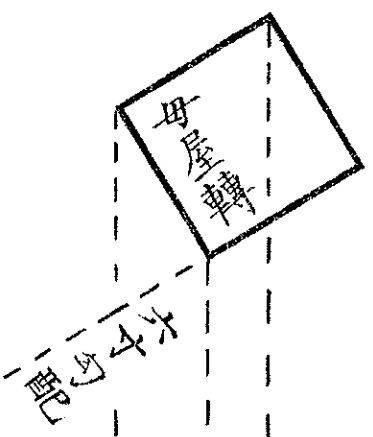


同母屋轉と
隅合掌の寫様
隅合掌の大栓穴墨も此箇の理方也

一母屋轉を隅合掌に寫様を母屋轉すを
裏目より直して隅合掌の寫に轉定る也

同母屋洞突墨 二様

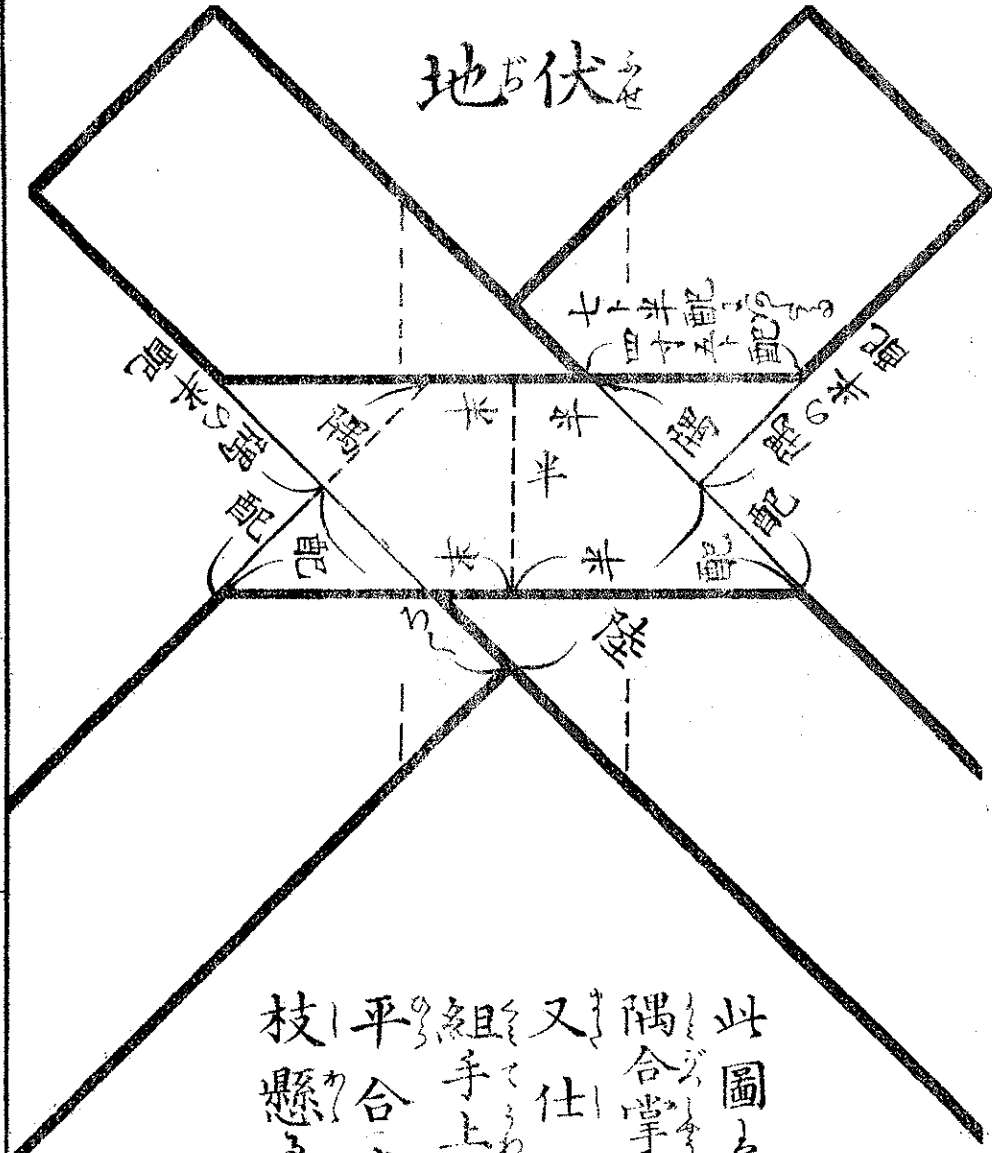
一母屋洞突墨見付の曲尺墨引方を平
勾配の寸寸長手と同勾配延と可用上
は長手も同延して墨引方を一尺あり
又茅負留も及りあさる此理方あり



一尺の寸

一尺

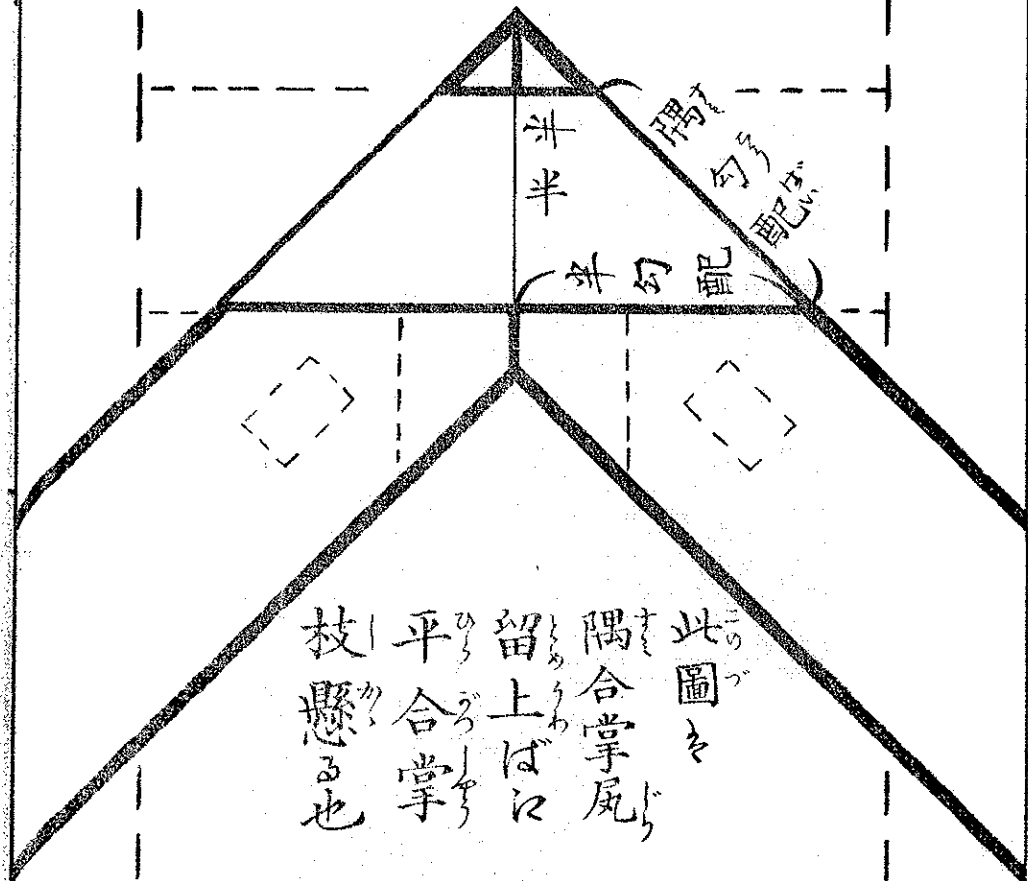
懸^り枝¹端^は上^る手^て組^を同



此圖も
偶合掌尻
又仕様
組手上げ
の枝懸る也

端^は上^る留^を同

地^は伏^を懸^り枝¹



此圖も
偶合掌尻
留上げに
平合掌
枝懸る也

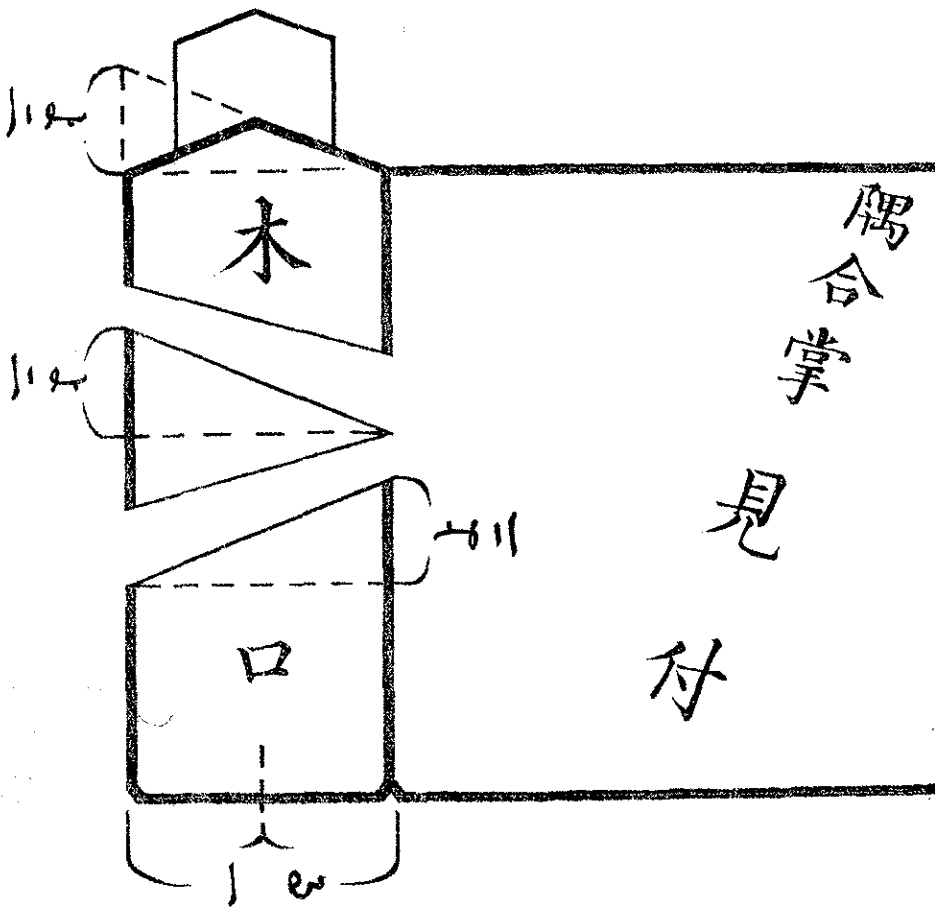
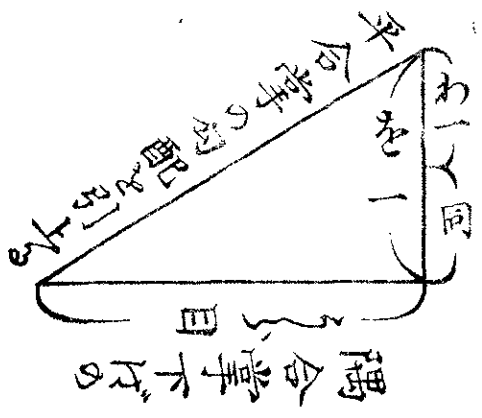
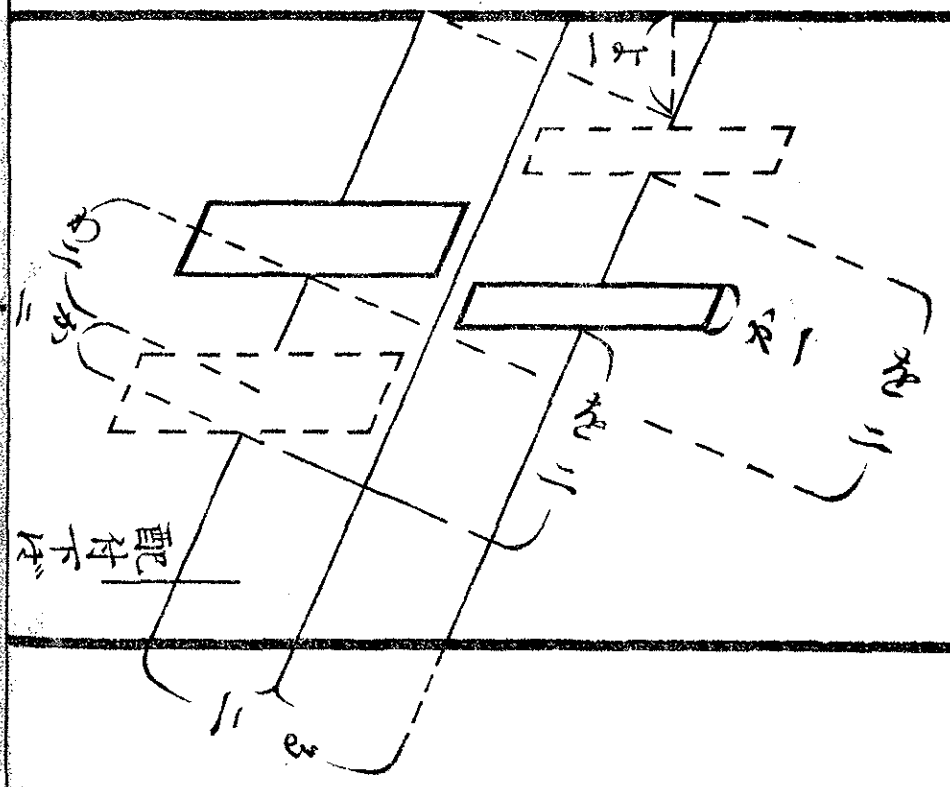
かご

九五初八音解初級者之一

同偶合掌の
配付穴墨仕様

一此穴墨をほろに寫様を穴墨の寸と立水を取て配付合掌の立水は寫す又配付合掌のせいと偶合掌は寫も其理方一致す又此穴の偶合掌のよわらざるためよめねも致す也

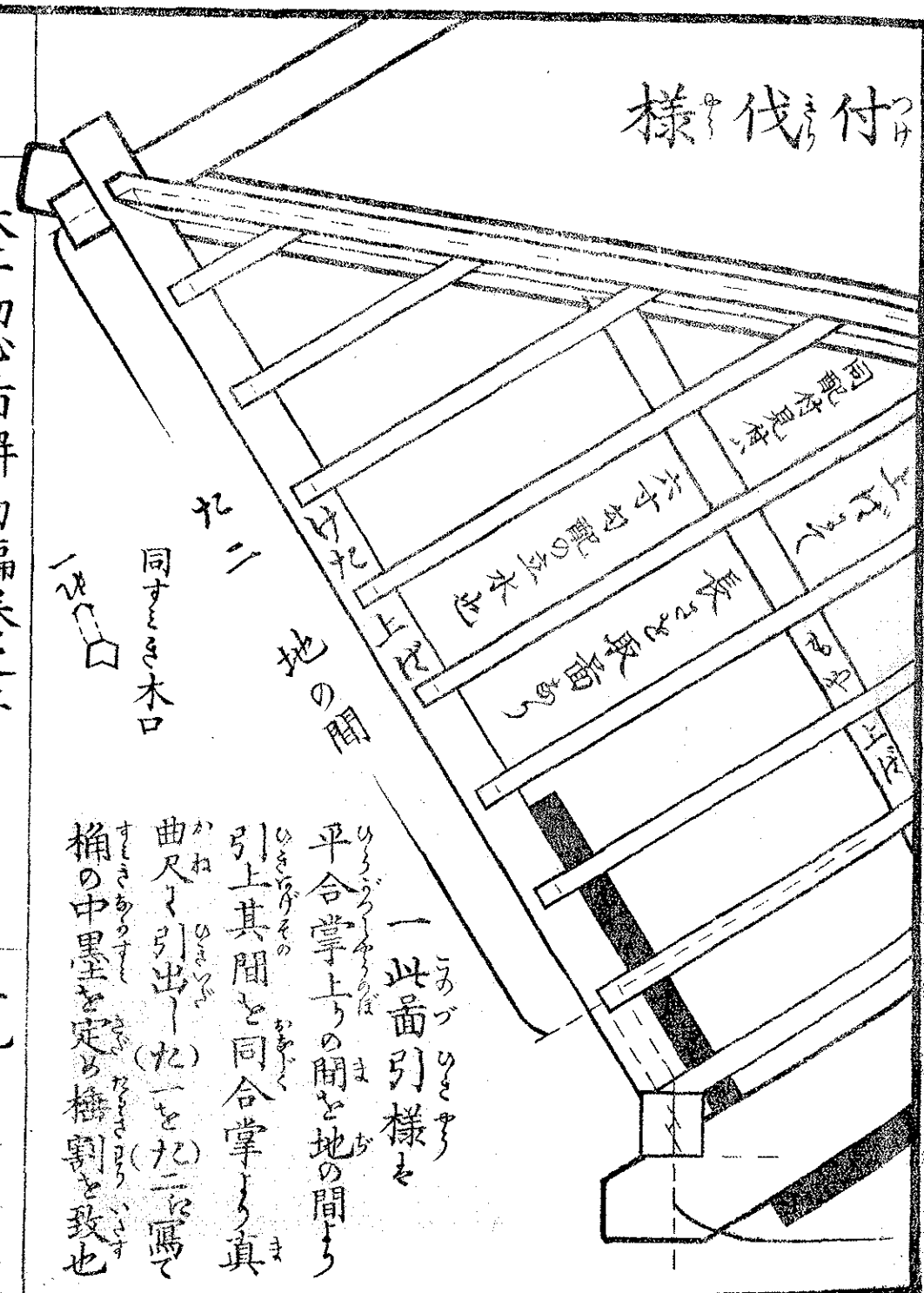
同穴立上り出様



大工神心置角・糸巻卷之一

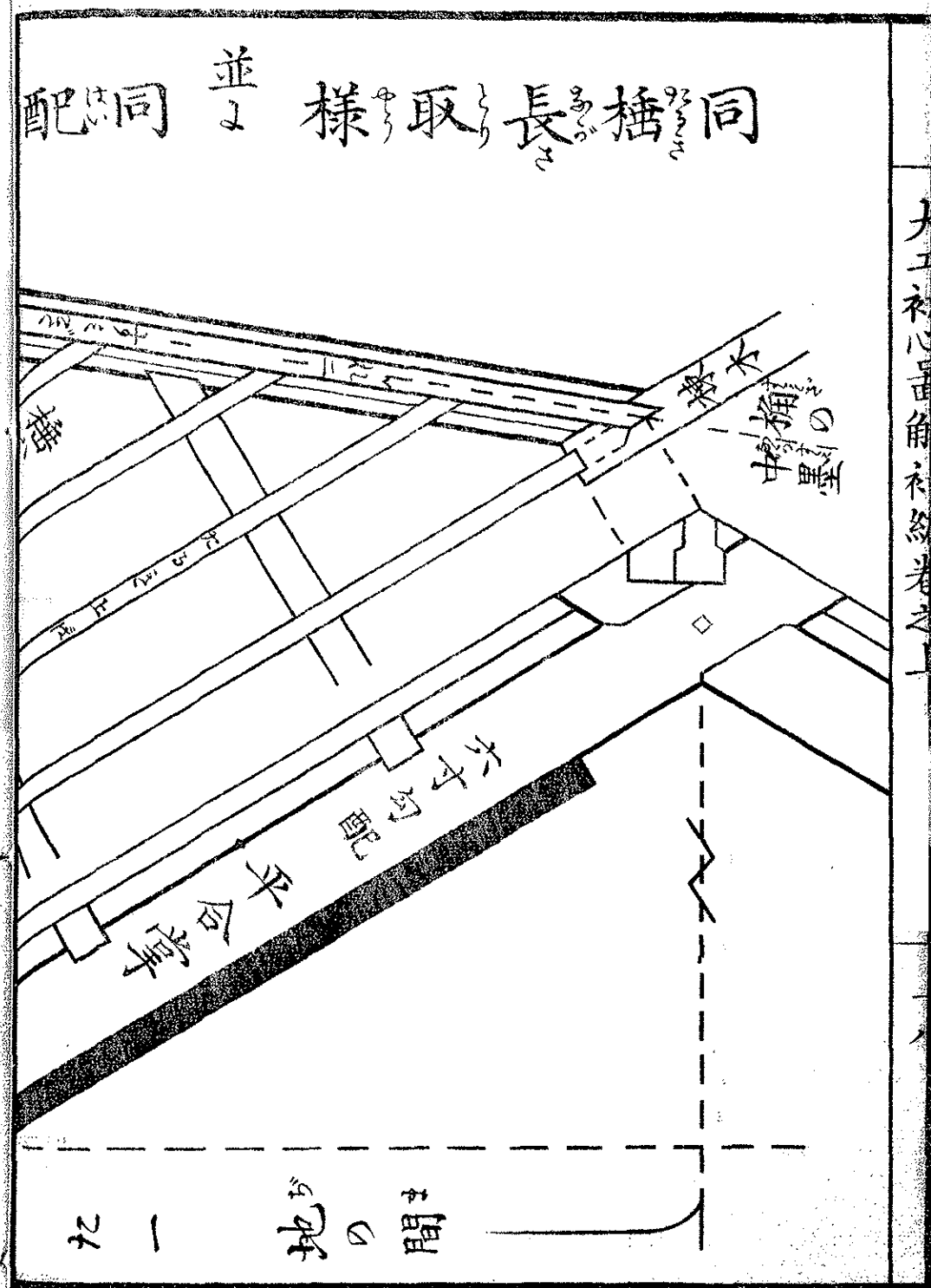
付伐の様

同並 同長 同取 様配



同すき木口

此面引様を
 平合掌上の間と地の間より
 引上其間と同合掌より真
 曲尺より引出し一た一をた二に寫す
 楯の中墨を定め梅割を致也

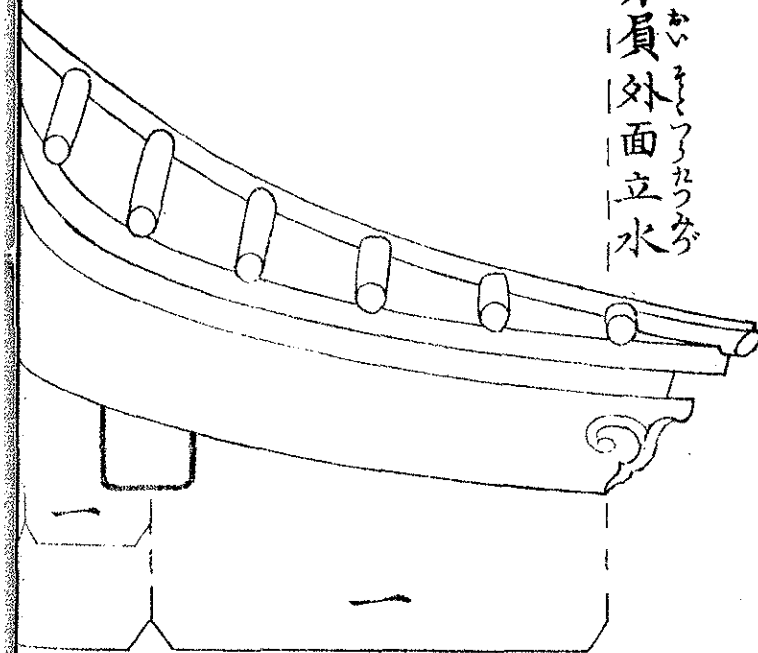


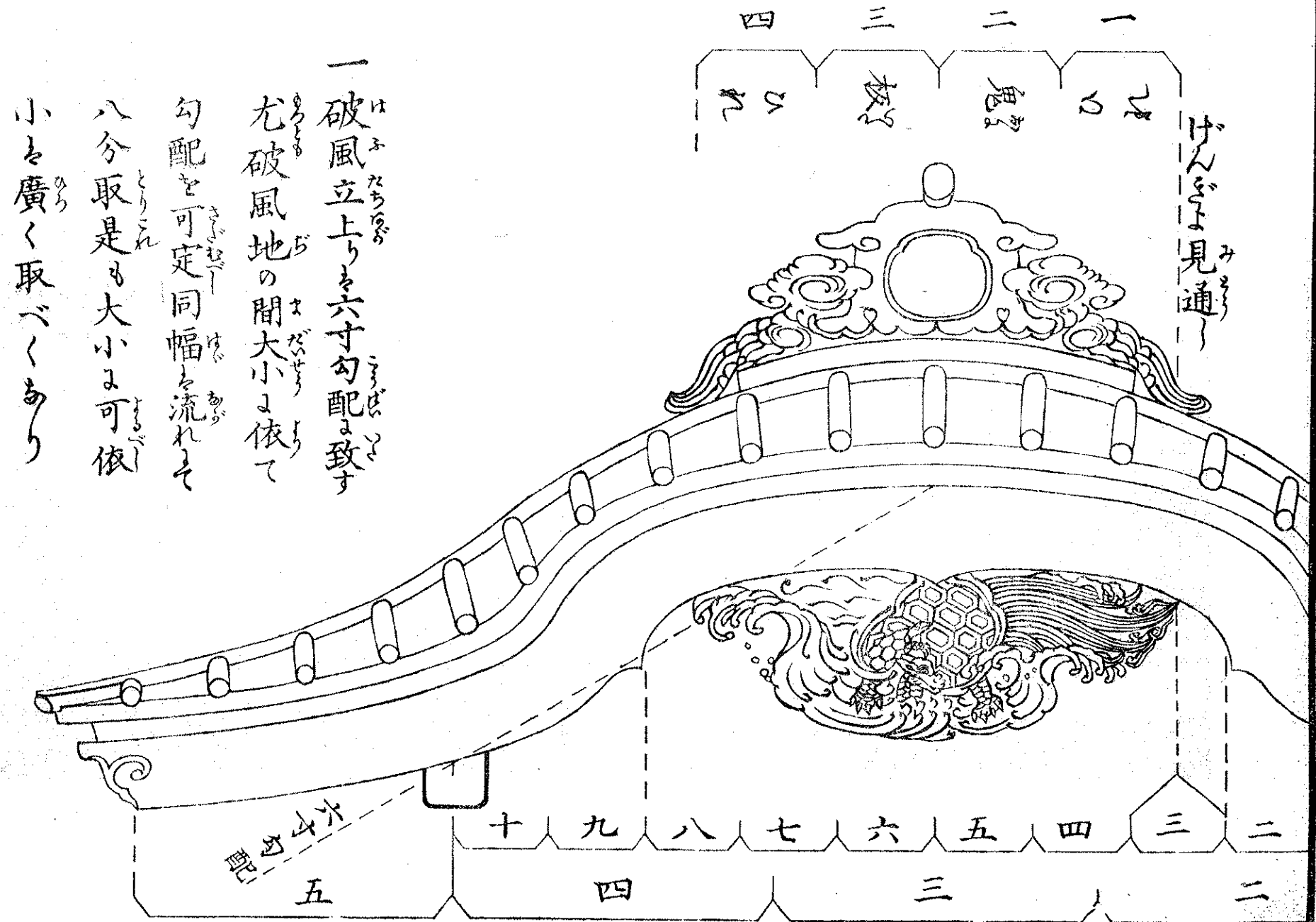
大工心算圖解

地の間

大^お唐^{たう}破^は風^{ふう}之^の畷^づ

茅^{かや}負^{かひ}外^{そと}面^{つら}立^{たつ}水^{みづ}





一 破風立上りはふたたちうへと六寸むさう勾配まがひを致す
 尤破風地まがひの間まがひ大小おほいに依よりて
 勾配まがひを可定きやうてい同幅おなひと流れなを
 八分取やくぱん是こゝも大小おほいに可依より
 小と廣ひろく取とるべしあり